

授業科目名	現代表現		担当者名	町田洋介			
			実務経験				
教科書	なし	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	後期	必修	講義
30							
授業概要	日本語における表記の仕方や文章構成について学び、基本的な文章の作成について習得する。さまざまな様式の文章を知り、その正しい表現の仕方・書き方を身に付ける。						
学習到達目標	文章作成における基礎を習得したうえで、論理的説得力のある文章を作成する力を身に付ける。						
評価方法	授業内課題および筆記試験による						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	日本語表記の基礎(1) 文法			文章作成にあたり必要な国語文法の基礎を身に付ける			
2							
3	日本語表記の基礎(2) 原稿用紙の書き方・文体						
4							
5	日本語表記の基礎(3) 記号の使い方・句読点の打ち方						
6							
7	日本語表記の基礎(4) 漢字表記とひらがな表記・表記ゆれ						
8							
9	日本語表現の基礎(1) 段落構成			段落構成の基本と段落を分ける意味を知り、段落構成を意識した文章を書ける			
10							
11	日本語表現の基礎(2) 対比関係のある文章①			文章の構造を捉えながら、情報を整理して読み取ることができる 構造を意識した文章を書ける			
12							
13	日本語表現の基礎(3) 対比関係のある文章②						
14							
15	日本語表現の基礎(4) 言い換え表現①			言い換える前の表現と後の表現を正しく把握できる さまざまな事物、表現の具体化・抽象化ができる			
16							
17	日本語表現の基礎(5) 言い換え表現②						
18							
19	日本語表現の基礎(6) 因果関係のある文章①			根拠や原因を正しく読み取ることができる 因果関係の明確な文章を書ける			
20							
21	日本語表現の基礎(7) 因果関係のある文章②						
22							
23	日本語表現の基礎(8) 敬語			場に応じた敬語表現を身に付ける			
24							
25	手紙の作成			定型的な文書を作成する力を身に付ける			
26							
27	メールの作成						
28							
29	その他の文書の作成						
30							

授業科目名	医療倫理		担当者名	尾形由美子			
			実務経験	看護師として病院等での勤務経験あり			
教科書	医療概論(第4版)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	後期	必修	講義
30							
授業概要	医療倫理の歴史、基本概念を理解し、医療現場で遭遇する倫理問題に対処できる言語聴覚士としての基礎的能力を養う。						
学習到達目標	①医療倫理の基礎知識を身につける。 ②医療倫理の問題や考え方を自分でも用いることができるようになる。						
評価方法	グループワーク、ディスカッション、ディベートなど平常点30%、学期末試験70%						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	ガイダンス	医療と倫理との関わり		なぜ医療倫理を学ぶのかを理解できる。 人道主義・人権について考える。			
2							
3	「医の倫理」小史 i	古代から近代への変遷		倫理規範の歴史を知ることができる。			
4							
5	「医の倫理」小史 ii	リハビリテーションの変遷と今後の課題		医の倫理とリハビリテーションとの関連が理解できる。			
6							
7	「言語聴覚士」小史 iii	言語聴覚士の役割		言語聴覚士の役割が理解できる。			
8							
9	医療倫理学的問題	インフォームドコンセント		診療行為を正当なものとするための有効な同意であることを理解できる。			
10							
11	医療倫理学的問題	医療従事者の基本的義務		人命の尊重と患者への献身とはなにか理解することができる。			
12							
13	医療倫理学的問題	医療倫理の4原則		善行の原則と無危害の原則、自立尊重の原則、正義の原則が説明できるようになる。			
14							
15	医療倫理学的問題	医療倫理の4原則(事例から)		医療におけるモラルジレンマ、生命倫理の4原則を考える。			
16							
17	医療倫理学的問題	患者の権利を尊重する		人間の尊厳について考える。			
18							
19	医療倫理学的問題	生命の始まりに関わる倫理的問題		人工妊娠中絶、生命の選別、人工受精、体外受精について現状を知る。			
20							
21	医療倫理学的問題	生命の終りに関わる問題		終末期医療、尊厳死と安楽死について学ぶ。			
22							
23	医療倫理学的問題	臓器移植から再生医療		脳死、臓器移植、遺伝医療、再生医療をめぐる問題について学ぶ。			
24							
25	医療をめぐる状況	医療倫理から考える医療事故・医療安全		医療行為における過失、過誤について理解できる。医療事故を防止する取り組みを知る。			
26							
27	医療をめぐる状況	医療倫理から考えるwell-beingを高める支援		マズローの5段階の基本的欲求を理解し、幸福・健康を高めるために必要なものとは何か説明できるようになる。			
28							
29	医療をめぐる状況	医療倫理から考える科学的根拠とこれからの医療		EBMとは何か、医療職は一生勉強していかねばならないことを理解する。			
30							

授業科目名	心理学		担当者名	田多英興			
			実務経験				
教科書	自分でできる心理学 宮沢秀次他編著 ナカニシヤ出版 配布資料(プリント)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	人文科学の代表として心理学の基礎的入門的知識の習得を目指す。「心理学とは何か」の心についての伝統的な非科学的理解から近代の科学的理解に至る過程の理解を基礎にして、知・情・意の諸側面について現代到達している科学的理解を深める。						
学習到達目標	STの養成課程の中で、Cureとしてのハードウェアの諸科学の基礎的理解の上に、将来の臨床現場における患者対応のためのCareとしてのソフトウェアの代表として心理的諸問題についての基本的理解を目指す。						
評価方法	出席率・レポート・試験の結果を総合的に評価する						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	心理学とは：「こころとは何か」に関する歴史			ブシケーなどギリシャ時代以来のこころの概念の歴史を説明できる			
2	心理学の成立：「魂なき心理学」			心理学が科学として成立した背景を説明できる			
3	20世紀の心理学： Gestalt、行動主義、精神分析			20世紀に達成した心理学の諸学説を説明できる			
4	心理学の研究対象と方法： 行動・意識・無意識			心理学の研究対象とその方法について説明できる			
5	認識のしくみ-1： 世界を知る：感覚・知覚・認知			刺激とは、適刺激・不適刺激・感覚過程の基本問題を説明できる			
6	認識のしくみ-2： 感覚の諸問題：視覚とその他の感覚			感覚様相、5感、視覚優位、視覚を中心にした知覚過程を説明できる			
7	知覚の諸相-1： 知覚の諸問題			体制化、錯視、空間の知覚、運動の知覚などを説明できる			
8	知覚の諸相-2： 認識機能＝認知			最高次の認知、文化的要因、個人的要因の影響を説明できる			
9	新しく学ぶ-1： 生得的行動と学習行動			動物としての人間の理解と独自の学習行動を説明できる			
10	新しく学ぶ-2： 古典的条件づけと道具的条件づけ			応答的行動と自発的行動の違いを説明できる			
11	新しく学ぶ-3： 観察学習の重要性			見て学ぶことの重要性を説明できる			
12	記憶のしくみ-1： 記憶の枠組み・記憶の調べ方			記銘・保持・再生、再生法と再認法などを説明できる			
13	記憶のしくみ-2： 記憶のシステム			感覚記憶・短期記憶≠長期記憶のシステムを説明できる			
14	記憶のしくみ-3： 日常的記憶			忘却：不使用説・干渉説・検索失敗説などの理論を説明できる			
15	記憶のしくみ-4： 記憶のゆがみ・			命名効果・スキーマとスクリプトなどの理論、証言・供述の正確さを説明できる			

16	動機づけ-1: 欲求と動機づけ。ホメオスタシス性・内発的動機	やる気と行動の関係で様々な欲求状態を説明できる
17	動機づけ-2: 社会的動機・達成動機・階層説	生物学的欲求以外の達成動機などの社会的動機を説明できる
18	動機づけ-3: 葛藤の種類・葛藤の原因・	葛藤の種類・原因・フラストレーション体制などの理論を説明できる
19	動機づけ-4: 防衛機制・ストレス	様々なストレス状態の理解と代表的な防衛規制を説明できる
20	情動過程-1: 情動理論:ジェーム・ズランゲ説、キャノン・バード説	情動の発現過程についてのいくつかの理論を説明できる
21	情動過程-2: 感情の分類	個体発生手観点からの分類や誘発因のからの分類法などを説明できる
22	情動過程-3: 感情の表出:表情・生理的変化・	喜怒哀楽の多様な表現の仕方を説明できる
23	人格過程-1: 個人差の記述、パーソナリティとは	その人らしさ、人柄とは何か、その意味の重要性について説明できる
24	人格過程-2: 個人差の記述、類型論と特性論	類型論と特性論による個人差記述の方法の違いを説明できる
25	人格過程-3: 人格検査法、質問紙法・作業検査法・投影法	人格の代表的な測定法のいくつかを説明できる
26	人格過程-4: 心理検査のひとつによる測定の実際	人格測定法の代表としてYG検査法を体験して自己像の記述
27	自我過程-1: 自分を知る、自己概念、自己意識	自分とは何かと言う心理学の根本問題について幾つかの理論を説明できる
28	自我過程-2: YG検査の結果のレポートにする	自己像についてその描写をレポートを書くことで説明できる
29	発達-1: 自我の発達を中心に生涯発達過程	新生児・児童期・少年期・青年期・成人期・高齢期の発達過程の特徴を説明できる
30	発達-2: 特に社会性の発達を中心に	ヒトは一人では生きていけない、社会性の発達を中心に発達の变化を説明できる

授業科目名	教育学		担当者名	町田洋介			
			実務経験				
教科書	『アクティベート教育学01教育原理』ミネルヴァ書房	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	後期	必修	講義
30							
授業概要	教育の定義とその意義について理解し、現代の教育に連なる教育思想および教育制度の歴史についての知識を得る。また、学校教育を中心とする現代教育の諸課題について理解する。						
学習到達目標	教育についての広義の意義目的を理解し、教育思想および教育制度の歴史を学ぶことにより、学校教育の諸制度・諸実践についての理解を深める。						
評価方法	レポートおよび筆記試験による						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	教育とは何か		教育として行われるさまざまな活動を知り、教育について理解する。				
2							
3	生活と教育		家庭教育、社会教育について理解する。				
4							
5	公教育の在り様		学校教育を中心に公教育の歴史を知り、公教育の在り方について理解する。				
6							
7	西洋教育思想の歴史(1) 古代		古代ギリシア哲学における知への欲求を学び、教育の源流に関する知識を得る。				
8							
9	西洋教育思想の歴史(2) 中世		中世からルネサンス期におけるヨーロッパのキリスト教を基盤とした教育観・人間観について理解する。				
10							
11	西洋教育思想の歴史(3) 近代		今日の教育観の基盤を成す近代教育思想について理解する。				
12							
13	西洋教育思想の歴史(4) 現代		新教育の理念と実践について理解する。				
14							
15	学校教育の歴史		近代における学校の誕生と展開についての知識を得る。				
16							
17	日本における教育の歴史(1) 近代以前		江戸時代までの子ども観、教育観について理解する。				
18							
19	日本における教育の歴史(2) 近代		明治期に整備された学校教育制度と、新教育および戦争の影響について理解する。				
20							
21	日本における教育の歴史(3) 現代		戦後の学校教育制度とその展開について理解する。				
22							
23	西洋における教育実践		新教育運動の実践についての知識を得る。				
24							
25	日本における教育実践		日本における新教育運動と、生活綴方についての知識を得る。				
26							
27	学力とは何か		教育で育む資質・能力について理解する。				
28							
29	教育における現代的課題		情報化社会における学校教育の諸課題について理解する。				
30							

授業科目名	基礎生物物理		担当者名	片岡 博尚			
			実務経験				
教科書	分かる化学シリーズ5 生命化学 やさしい基礎生物学 羊土社	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	私たち自身が動物であり、多くの生物と関わりをもって暮らしていることを考えると、生物学は非常に身近で重要な学問です。皆さんが専門分野で学習する内容の基本でもあります。高校までの生物学は暗記中心の科目と捉えられがちですが、本当は物理学や化学を理解したうえで学ぶ総合的な学問なのです。本講義では身近な事柄と関連させて、生命の仕組み、生命の不思議 などについて理解していきます。						
学習到達目標	生命の仕組みが物理化学法則に従っていることを理解します。						
評価方法	出席・小テスト、期末テストなどから総合的に評価します。						
時数	授業内容		到達目標・学習課題など				
1	生命の謎を化学で解き明かす		生物学で学ぶ内容紹介し、生物の体で起こることは全て、物理化学法則に従っていることを理解します。				
2	同上						
3	細胞は生命の小箱		生命の単位は細胞であることを理解し、生命の基本装置である細胞小器官の構造と働きを学びます				
4	同上						
5	生命を作る分子たち ① 元素, 低分子化合物		細がの主な構成元素はH, O, C, N, で、これは海水の組成に似ていることの意味を考えます				
6	同上						
7	生命を作る分子たち ② タンパク質, 糖, 脂質		細胞を作る高分子化合物について学びます				
8	同上						
9	生命活動: エネルギーは生命を支える		生命は外界からエネルギーを取り入れることで成り立ちます。細胞の中でATPがエネルギーの貨幣として使われていることを理解します				
10	同上						
11	生命活動: 生命を維持するための機能		生命を維持するにはエネルギーを得るだけでなく、外界の情報を感受し、対応しなくてはならないことを学びます				
12	同上						
13	生命の連続性: 核酸は遺伝情報を担う		DNA, RNA の役割と遺伝情報伝達の仕組みを学びます				
14	同上						
15	生命の連続性: 生命の旅立ちから終わりまで ① 染色体, 細胞分裂		細胞の一生, 染色体と 細胞分裂, 細胞周期について学びます				
16	同上						
17	生命の連続性: 生命の旅立ちから終わりまで ② 減数分裂, 細胞死		減数分裂と有性生殖の意味, 体細胞はなぜ死ぬのか, それか, 生命の連続に有利なことを知ります				
18	同上						
19	生命の連続性: ヒトは生命を操れるのか		ゲノム解析の意味, 遺伝子組み換え作物, ゲノム医療の問題点を考えます。				
20	同上						
21	生命を守るための化学: 自己と非自己はどう区別されるか		免疫について学びます				
22	同上						
23	生命を守るための化学: 病気の化学		ガン, エイズなど遺伝子傷害が本になる病気の起こるしくみ, 治療法について学びます				
24	同上						
25	生命と環境 ① 地球上の生命の起源と進化		生命の歴史と真核生物の進化, 陸にあがった植物について学ぶ				
26	同上						
27	生命と環境 ② 地球環境問題と温暖化		地球上の一次生産(光合成)の大半は海洋で為されることを理解し, 海水の温暖化が生命を脅かすことを理解します				
28	同上						
29	まとめ		これまでの振り返りをおこないます				
30	同上						

授業科目名	統計学		担当者名	松村一矢			
			実務経験				
教科書	解きながら学ぶ統計学 大川内隆朗 著 基礎から学ぶ統計学 中原治 著	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	後期	必修	講義・演習
30							
授業概要	記述統計を中心として統計の基礎知識学ぶ。Excelを用いた演習も適宜行い、具体的な調査目的に対し、統計手法を用いた分析を用いる応用方法を学ぶ。						
学習到達目標	①統計の基礎理解を有し説明が出来る。 ②Excelなどを用い統計手法を用いた結果の出力が出来る。 ③統計手法を用い調査目的に対する分析が出来る						
評価方法	出席率・課題提出・試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	統計学とは			授業の説明を行う。統計の必要性を理解する			
2	母集団と標本			母集団と標本の意味と方法を理解する			
3	データの収集			データの記録方法および尺度を理解する			
4				変数の理解、分析における交絡と表現方法について理解する			
5	クロス集計			クロス集計の意味と方法を理解する			
6				クロス集計を用いた調査の目的と方法を理解する			
7	度数分布とヒストグラム			度数分布の意味と方法を理解する			
8				ヒストグラムの意味と方法を理解する			
9	要約統計			数値要約の意味と方法を理解する			
10				四分位数の意味と方法を理解する			
11	箱ひげ図と幹葉図			五数要約の考え方と箱ひげ図の記述方法を理解する			
12				幹葉図の意味と方法を理解する			
13	確率と期待値			事象と確率の意味と方法を理解する			
14				期待値の意味と方法を理解する			
15	分散			散布度および偏差の意味と方法を理解する			
16				母平均と母分散の意味と方法を理解する			
17	標準化			標準化の意味と方法を理解する			
18				偏差値の意味と方法を理解する			
19	相関			相関の意味および散布図による方法を理解する			
20				相関係数と回帰係数の意味と方法を理解する			
21				疑似相関の考え方を理解する			
22				相関を用いた調査の目的と方法を理解する			
23	時系列データ			時系列データの意味を理解し折れ線グラフによる方法を理解する			
24				移動平均の意味と方法を理解する			
25	演習			調査目的に合わせ統計の実践を行う。学んだ方法を組み合わせて演習を行い実際に統計を用いる方法を理解する			
26							
27							
28							
29	振り返り			授業の内容を振り返り統計の目的と方法の理解を深める			
30	期末試験						

授業科目名	英語 I		担当者名	都築 玲子			
			実務経験				
教科書	指定しない	単位数 2	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
	プリント小冊子を使用する	時間数 30	言語聴覚科	1	前期	必修	講義
授業概要	医療、科学、環境等の分野についてのニュースピックや、DVDを使用し知見を広めながら、医療実務で役立つ基礎英語力を養成する。						
学習到達目標	英文の基本構造をとらえられるようになり、文、段落、文全体を理解し、必要な情報を得られるように基礎力を身につける。						
評価方法	出席、クラス参加、課題提出、小テスト、期末試験の結果の総合評価とする。						
時数	授 業 内 容		学 習 課 題 ・ 留 意 事 項 等				
1	自己紹介・クラス予定・評価方法 Icebreaking		クラスルールと、自己紹介、今後の英語学習のためのコツ、前期授業評価基準について理解する。				
2	TOEIC Bridge Sample Test 自己評価		現在の英語力を評価し、各自半年後の目標を確認する。				
3	Comparing COVID-19 with previous		紀元前から現代まで、人類に幾度も危機をもたらしたパンデミックとCOVID 19を比較し、違いと教訓を学ぶ。				
4	After effects of COVID 19, 次のパンデミックに備える		DVD Are we ready for a pandemic? Bill Gates				
5	1. New Measles Outbreak in Europe		読解Rule1 文章の主語、動詞、目的語、補語など文の構造を理解できる。				
6	2. Outbreak of Plague in Madagascar		マダガスカルで流行した病気について理解できる。				
7	3. New Blood Test may detect cancer		読解Rule 2 代名詞が何を示すか説明できる。				
8	消化器系の臓器の英語表現をまとめる		癌を察知できる新しい血液検査はどのようなものか理解する。				
9	4. Baby Girl Born From Embryo Frozen 24 Years Age		読解Rule 3 言い換え表現を見つけられる。				
10	4. Baby Girl Born From Embryo Frozen 24 Years Age		24年前に凍結された受精卵から女の子が生まれた経過について説明できる。生殖医療の問題点がかりかいできる。				
11	5. Regular Exercise Can Improve Your Memory		読解Rule 4 地名、団体名、役職名などはまとめて読みやすくなることができる。				
12	5. Regular Exercise Can Improve Your Memory		記憶力、思考力に運動がどのような影響を与えるか説明できる。				
13	6. Moderate Coffee Consumption May		適度なコーヒーの消費がある種の病気の予防に役立つことが理解できる。				
14	6. Moderate Coffee Consumption May		コーヒーの効用とは何か理解する。				
15	7. Dog Ownership May Improve Your health		犬との生活が人の健康に及ぼす影響について説明できる。				
16	7. Dog Ownership May Improve Your health		どのような病気に効果的であるか説明できる。				
17	8. American Cardiologists Publish New		読解Rule 5 英文の構造をつかめる。				
18	8. American Cardiologists Publish New		血圧の基準値が変わった理由と高血圧の影響について説明できる。				
19	9. Cloning of First Monkeys in China		類人猿ではむずかしいとされることを可能にしたのはどのような技術か理解できる。				
20	9. Cloning of First Monkeys in China		サルたちのその後と、その後の問題について理解できる。				
21	Rehabilitation for stroke: What to know		脳卒中のリハビリテーションについてどのような職種連携が必要か理解する。				
22	Rehabilitation for stroke: What to know		脳卒中が引き起こす障害とは何か。職種連携の例として読解する				
23	10. Stephen Hawking dies at 76		ホーキング博士の功績について理解できる。				
24	10. Stephen Hawking dies at 76		ALSとはどのような病気か理解できる。				
25	10. Predictions of Dr. Hawking		ホーキング博士の12の未来予言を読解する。				
26	There are no scraps of men		アフガニスタンで働き、神の使いとよばれるイタリア人理学療法士の奮闘について理解する。				
27	Tribute to Tetsu Nakamura a humanitarian more than a doctor		中村哲氏がなぜアフガニスタンの地で働いたか目指したものを理解する。				
28	Tribute to Tetsu Nakamura a humanitarian more than a doctor		Tribute movie				
29	小テスト		vocabulary, Reading, composition				
30	Review		総復習				

授業科目名	英語Ⅱ		担当者名	都築 玲子			
			実務経験				
教科書	The Hospital Team	単位数 2	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
	Nanundo	時間数 30					
	授業概要 医療従事者が共通してしていなければならない「からだ」の仕組みや、名称の英語表現を身につけていく。						
学習到達目標	多職域連携を目指し、互いの職域を知るなかで、基本的な英語力を再構築していく。						
評価方法	出席、クラス参加、課題提出、小テスト、期末試験の結果の総合評価とする。						
時数	授 業 内 容		学 習 課 題 ・ 留 意 事 項 等				
1	Unit1 The Human body		身体の構造や機能をとらえることができる。単語、読解				
2	Unit1 The Human body		Listening,穴埋め、英作文練習、Additional Information				
3	Unit2 Nutrition and Fitness		食生活と健康について考える。子供の肥満と生活様式の問題点について理解できる。単語、読解				
4	Unit2 Nutrition and Fitness		Listening,穴埋め、英作文練習、Additional Information				
5	Unit3 Communicable Diseases		病原体となるさまざまな美声むつによって引き起こされる伝染病について理解できる。単語、読解				
6	Unit3 Communicable Diseases		Listening,穴埋め、英作文練習、Additional Information				
7	Unit4 Hygiene and Public Health		個人と公衆衛生管理について理解できる。単語、読解				
8	Unit4 Hygiene and Public Health		Listening,穴埋め、英作文練習、Additional Information				
9	Unit5 Reforming Japanese Healthcare		日本の医療の改善策について理解し、高齢化社会の問題にどのように対処すべきか理解する。単語、読解				
10	Unit5 Reforming Japanese Healthcare		Listening,穴埋め、英作文練習、Additional Information				
11	Unit6 Needle stick Injuries in Medicine		針刺し損傷は、医療従事者に都のような問題をもたらしているか、それを防ぐためにはどうすればよいか理解できる。				
12	Unit6 Needle stick Injuries in Medicine		Listening,穴埋め、英作文練習、Additional Information				
13	Unit7 Dr. Kitasato and the Development of Medicine in Japan		衛生立国の理想をかかげた北里柴三郎の業績と精神を理解しよう。単語、読解				
14	Unit7 Dr. Kitasato and the Development of Medicine in Japan		Listening,穴埋め、英作文練習、Additional Information				
15	Unit8 The Medical Laboratory		臨床検査技師の仕事について理解できる。単語、読解				
16	Unit8 The Medical Laboratory		Listening,穴埋め、英作文練習、Additional Information				
17	Unit9 Clinical Engineering		臨床工学士の仕事について理解する。単語、読解				
18	Unit9 Clinical Engineering		Listening,穴埋め、英作文練習、Additional Information				
19	Unit10 Radiological Technology		診療放射線技師の仕事はどのようなものか理解する。単語、読解				
20	Unit10 Radiological Technology		Listening,穴埋め、英作文練習、Additional Information				
21	Unit11 Physical Therapy		理学療法士とその仕事を理解する。単語、読解				
22	Unit11 Physical Therapy		Listening,穴埋め、英作文練習、Additional Information				
23	Unit12 Working in Occupational therapy		作業療法士の仕事を理解する。単語、読解				
24	Unit12 Working in Occupational therapy		Listening,穴埋め、英作文練習、Additional Information				
25	Unit13 Speech Language Therapy as a vocation		言語聴覚士のしごとについて理解する。単語、読解				
26	Unit13 Speech Language Therapy as a vocation		Listening,穴埋め、英作文練習、Additional Information				
27	Unit14 Orthoptics and Visual Science		視覚機能療法について理解する。単語、読解				
28	Unit14 Orthoptics and Visual Science		Listening,穴埋め、英作文練習、Additional Information				
29	Unit15 Why Team Medical Treatment Necessary?		医療の質を向上させるためにすべての医療スタッフの連携プレーが必要なことを理解できる。				
30	Unit15 Why Team Medical Treatment Necessary?		Listening,穴埋め、英作文練習、Additional Information				

授業科目名	保健体育 I		担当者名	沼田 尚			
			実務経験				
教科書	なし	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	言語聴覚科	1	後期	必修	演習
30							
授業概要	本授業では、様々な運動を体験することで、実践することの「楽しさ」を理解し、必要な基礎的運動技術を獲得することを目的とし、生涯、スポーツへと関わっていくための運動習慣やコミュニケーション能力の習得、養成、向上を図る。						
学習到達目標	<p>①怪我をしないようにみんなで楽しみながら、様々な運動を積極的に体験し、基礎的運動技術を獲得・向上させる。</p> <p>②様々なスポーツのルールを理解する。</p> <p>③体づくり運動を行うなかで、自己の柔軟性や身体の動きを理解する。</p> <p>④スポーツを通して、コミュニケーション能力を習得、養成、向上する。</p>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受講態度(80%)…出席状況と授業への取り組む姿勢・態度など。</li> <li>・ 技術習得と理解度(20%)…各種目における、技術の習得とルールの理解度などをみる。</li> <li>・ 課題レポート…適宜レポートの提出を求めることもある。実技試験を行う場合もある。</li> </ul>						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	オリエンテーション		授業への取り組む姿勢・態度に気を付ける				
2	ストレッチ運動		体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する				
3	身体づくり運動1(自重トレーニング)		体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する				
4	身体づくり運動2(自重トレーニング)		体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する				
5	身体づくり運動3(持久力トレーニング)		体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する				
6	身体づくり運動4(持久力トレーニング)		体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する				
7	身体づくり運動5(ペアトレーニング)		体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する				
8	身体づくり運動6(ペアトレーニング)		体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する				
9	身体づくり運動7(サーキットトレーニング)		体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する				
10	身体づくり運動8(サーキットトレーニング)		体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する				
11	縄を使った運動1		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				
12	縄を使った運動2		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				
13	道具を使ったスポーツ1(フライングディスク)		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				
14	道具を使ったスポーツ2(フライングディスク)		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				
15	道具を使ったスポーツ3(ドッジビー)		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				
16	道具を使ったスポーツ4(ドッジビー)		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				
17	道具を使ったスポーツ5(インディアカ)		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				
18	道具を使ったスポーツ6(インディアカ)		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				
19	道具を使ったスポーツ7(インディアカ)		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				
20	道具を使ったスポーツ8(インディアカ)		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				
21	道具を使ったスポーツ9(ソフトバレーボール)		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				
22	道具を使ったスポーツ10(ソフトバレーボール)		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				
23	道具を使ったスポーツ11(ソフトバレーボール)		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				
24	道具を使ったスポーツ12(ソフトバレーボール)		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				
25	道具を使ったスポーツ13(シッティングバレーボール)		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				
26	道具を使ったスポーツ14(シッティングバレーボール)		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				
27	道具を使ったスポーツ15(ブラインドサッカー)		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				
28	道具を使ったスポーツ16(ブラインドサッカー)		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				
29	道具を使ったスポーツ17(ブラインドサッカー)		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				
30	道具を使ったスポーツ18(ブラインドサッカー) まとめ		体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する				

授業科目名	医学総論		担当者名	及川 隆司			
			実務経験	医師として病院等での勤務経験あり			
教科書	学生のための医学概論(医学書院)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	我が国の医療体制の概念や考え方を解説する。また現在の我が国をとりまく医学全体について多岐にわたって講義する。						
学習到達目標	医療体制の概念や考え方を身に付ける						
評価方法	定期試験による						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	チーム医療・医療保険提供体制を理解する			医療を支える人々で保健医療サービスの提供体制、日本の医療保険制度、医療政策と医療計画・医療と経済			
2	医療保険制度・医療改革・医療と経済を理解する						
3	在宅ケアのシステム等を理解する			在宅ケアの推進 高齢者ケアシステムについて理解する			
4	高齢者ケアシステムを理解する						
5	災害医療の定義・種類			災害医療について理解する			
6	災害医療の実践-CSCATTT						
7	救急医療の歴史			救急医療の歴史と日本の現状について理解する 救急救命について理解する			
8	わが国の救急医療体制						
9	医療事故の定義と原因			医療安全について理解する			
10	医療事故の対策						
11	健康の定義・健康政策			健康の定義・ヘルスプロモーション オーダーメイドの健康増進法について理解する			
12	オーダーメイドの健康増進・倫理規定						
13	老化・認知症の定義と対策			老化・認知症とその対策 思春・青年・成人期の精神保健と対策について理解する			
14	精神保健対策と将来						
15	リハビリテーションの目的とチームワーク			リハビリテーションの目的とチームワーク ノーマライゼーションへの道			
16	ノーマライゼーションへの道と課題						
17	細菌と人間の戦いにみる医学の歴史			近代医学の誕生 日本の近代化と医療の発達について理解する			
18	母子の健康をめぐる日本の医療の発達						
19	放射線被爆と人間			薬害・公害事例から学ぶこと			
20	薬害・四大公害病から学ぶもの						
21	診断・治療機器の発達と課題			医用工学の発達 臓器移植の定義と施行について理解する			
22	臓器移植法の歴史とシステム						
23	遺伝子診断の課題と今後の医療従事者の役割			生命科学の発達と医学 海外での保健医療活動			
24	保健医療分野の国際化						
25	保管代替医療の内容			現代医療の新たな領域について理解する 予防等の基礎について理解する			
26	統合医療と食。日本における統合医療						
27	患者中心の医療・医療サービスと医学診断			現代医療が目指すもの 医療と診療記録			
28	POS診療記録が目指すもの						
29	チーム医療の実践。生命倫理とその判断			患者中心の医療の方法論 生命倫理と患者の権利			
30	インフォームドコンセント・個人情報保護とターミナルケア						

授業科目名	解剖学		担当者名	眞柳 みゆき			
			実務経験	歯科医師として病院等での勤務経験あり			
教科書	言語聴覚士のための解剖生理学／医歯薬出版	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
	適宜：配布プリント	時間数	言語聴覚科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	言語聴覚士にとって重要な部分を中心に、人体の仕組みや各器官のはたらきに関して、なるべくわかりやすく解していく。						
学習到達目標	人体の構造・しくみについての知識を習得する。						
評価方法	出席・課題への取り組み・試験の結果を考慮して総合的に判断する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	からだの構造と機能の基本①			ヒトとは？人体の階層性を説明できる			
2	からだの構造と機能の基本②			細胞の構成や細胞小器官を説明できる			
3	からだの構造と機能の基本③			遺伝子・細胞分裂について説明できる			
4	からだの構造と機能の基本④			組織とその働きを説明できる			
5	からだの構造と機能の基本⑤・確認問題(p17)			解剖学的基本用語を理解する			
6	骨格・骨の構造			骨格系の働きや骨の構造を理解する			
7	骨の連結・体幹の骨			関節・体幹の骨について理解する			
8	上肢の骨・下肢の骨			上肢・下肢の骨について理解する			
9	頭蓋①			頭蓋を形成している骨を挙理解する			
10	頭蓋②・確認問題(p40-41)			鼻腔・副鼻腔と口腔について説明できる			
11	骨格筋			骨格筋について説明できる			
12	体幹・上肢・下肢の筋			体幹・上肢・下肢の筋について理解する			
13	頭頸部の筋・確認問題(p56)			頭頸部の筋について理解し説明できる			
14	循環器系①			体循環と肺循環・心臓の基本構造を理解する			
15	循環器系②・確認問題(p74)			血管について理解する			
16	血液と免疫系・確認問題(p85)			血液とその免疫機能を理解する			
17	呼吸器系・確認問題(p97)			呼吸器系の器官を理解し、呼吸について説明できる			
18	消化器系①			消化器系の概要を理解する			
19	消化器系②			口腔・咽頭・食道・胃について説明できる			
20	消化器系③・確認問題(p113)			小腸・大腸・肝臓・膵臓・腹膜について説明できる			
21	泌尿器系・確認問題(p124)			泌尿器系の器官について理解する			
22	生殖器系・確認問題(p136)			生殖器の構造を理解し、個体発生について説明できる			
23	内分泌系・確認問題(p138)			内分泌系の働きおよび器官について説明できる			
24	感覚器系①			感覚器系の働きを理解し、嗅覚について説明できる			
25	感覚器系②・確認問題(p160)			皮膚感覚・固有感覚・視覚・聴覚・平衡感覚・味覚について説明できる			
26	神経系①			神経系のはたらきや細胞について理解する			
27	神経系②			脳・脊髄について説明できる			
28	神経系③・確認問題(p185-186)			感覚および随意運動の伝導路・自立神経系に関して理解する			
29	小テスト			国家試験形式の問題を解いてみる			
30	復習			小テスト解答解説を聞き理解を深める			

授業科目名	生理学		担当者名	高橋彌穂			
			実務経験				
教科書	・シンプル生理学／南江堂 ・目でみるからだのメカニズム ・PT・OT生理学ノート	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	前期	必修	講義
	30						
授業概要	言語聴覚士も人の身体の基本的な構造と機能を学ばなければならない。そのうえで、生命維持活動のために必要な神経系のはたらきは下界・身体内の変化を刺激としてとらえ、呼吸・循環などを調節している。この授業では細胞の基本構造・はたらきから、中枢・末梢神経系、感覚器系、循環系(心臓・血管、血液)の機能とはたらきについて学び、専門科目へつなげる。						
学習到達目標	①細胞の構造と機能について説明できる。②神経系のシナプス伝達、神経伝達物質について理解する。③中枢神経、末梢神経系の概略と関係を理解する。④感覚器系の機能について理解する。⑤血液循環の仕組みについて理解する。						
評価方法	出席・授業態度・前期試験(9月予定)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	生理学とは？ 身体の階層性について			医療になぜ生理学が必要か？生理学と生物学の違い。人体には様々な階層が存在するという事などを学ぶ。			
2	生命現象について ホメオスタシス			生体恒常性の仕組みを学ぶ。			
3	細胞の基本構造と機能：細胞膜の機能と構造			細胞膜の機能を学ぶ。			
4	細胞の基本構造と機能：核 DNAとRNA			核の中にあるDNAとRNAの働きを学ぶ。			
5	細胞の基本構造と機能：細胞小器官			細胞質の中の様々な構造物を知る。			
6	細胞の基本構造と機能：細胞小器官			タンパク質合成について学ぶ。			
7	細胞の基本構造と機能：静止電位			静止電位の意味を知る。			
8	細胞の基本構造と機能：活動電位			活動電位の意味を知る。			
9	神経細胞の構造			神経細胞の各部位について学ぶ。			
10	神経興奮の発生と伝導			興奮の発生の機序について学ぶ。			
11	末梢神経の種類			末梢神経の種類と働きを知る。			
12	末梢神経の種類			末梢神経の種類と働きを知る。			
13	神経の興奮と伝達① シナプス 活動電位			シナプスの構造について学ぶ。			
14	神経の興奮と伝達② 神経伝達物質			興奮性と抑制性シナプスの特徴と神経伝達物質の種類を知る。			
15	中枢神経系① 総論(大脳から脊髄)			大脳から脊髄までの中枢神経系の機能について学ぶ。			
16	中枢神経系② 大脳 大脳皮質			大脳皮質の活動と役割を知る。			
17	中枢神経系③ 脳幹 間脳			脳幹の機能と反射中枢としての役割を知る。			
18	中枢神経系④ 脳波 覚醒と睡眠			覚醒と睡眠について性質と睡眠の役割を知る。			
19	中枢神経系⑤ 小脳 脊髄			小脳の機能について学ぶ。			
20	中枢神経系⑥ 小脳 脊髄			脊髄神経と反射の関係			
21	感覚器系①感覚器官のはたらき 意識 閾値 順応性			適刺激と閾値について説明できる。			
22	感覚器系② 体性感覚 皮膚感覚 深部感覚			体性感覚についてそれぞれ説明できる。			
23	感覚器系③ 内臓感覚			内臓感覚について学ぶ。			
24	感覚器系④ 視覚			視覚の伝導路について学ぶ。			
25	感覚器系⑤ 聴覚 平衡感覚			音波の伝わる経路について説明できる。			
26	感覚器系⑥ 嗅覚 味覚			嗅覚と味覚について学ぶ。			
27	循環系① 心臓のはたらき 肺循環と体循環			心臓の働きと循環について学ぶ。			
28	循環系② 心臓の興奮と刺激伝導			心臓の自動性について学ぶ。			
29	血液のはたらきと成分			血液の組成と機能について学ぶ。			
30	ホルモンの種類とはたらき			ホルモンの作用と性質を学ぶ。			

授業科目名	病理学		担当者名	武田 和久			
			実務経験	医師として病院等での勤務経験あり			
教科書	・カラーアトラス病態病理学 長澤治夫／鈴木博義 共著 改訂2版 (株)丸善出版 ・配布資料(プリント)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	後期	必修	講義
授業概要	ヒトのからだの正常な機能と構造が、さまざまな原因(病因)により異常となる仕組み、機序について学習し、それぞれの病態と正常な構造と機能との違いについて学習する。また、からだの損傷や創傷の回復や治癒の機序についても学習する。						
学習到達目標	[1]疾病の成立機序や疾病の基本となる病変とそれに伴う形態・機能の変化、病態生理学、病態生化学について説明できる。 [2]からだの損傷や創傷の回復や治癒の機序についても理解し説明できる。 [3]それぞれの病態と正常な構造と機能との違いについて理解し説明できる。						
評価方法	出席・授業態度・試験(1月)の結果を総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	正常な細胞の構造(オルガネラ)と機能			正常な細胞のオルガネラの構造・機能とその異常疾患について説明できる。			
2							
3	細胞障害の原因と機序(変性)			細胞障害の原因と機序(変性)を分類し各々について説明できる。			
4							
5	細胞の死 及び 病理的变化(細胞増殖分化の異常)			細胞死(壊死、アポトーシス)及び病理的变化(細胞増殖分化異常)について説明できる。			
6							
7	創傷治癒 炎症 感染症			創傷治癒、炎症、感染症について説明できる。			
8							
9	遺伝子・染色体の異常			遺伝子・染色体の異常疾患について説明できる。			
10							
11	代謝異常:糖・脂質代謝異常(糖尿病 脂質異常症など)			糖・脂質代謝異常疾患について説明できる。			
12							
13	代謝異常:タンパク質・核酸代謝異常			タンパク質・核酸代謝異常疾患(アミロイドーシス、通風など)について説明できる。			
14							
15	代謝異常:その他の代謝疾患(黄疸、ビタミン、ミネラル異常など)			黄疸、ビタミン、ミネラル異常などの代謝異常疾患について説明できる。			
16							
17	循環障害 出血素因 ショック			循環障害、出血素因、ショックの機序と疾患について説明できる。			
18							
19	免疫異常			免疫異常疾患について説明できる。			
20							
21	腫瘍学:発がんのメカニズム			発がんのメカニズムと代表的遺伝性がん疾患について説明できる。			
22							
23	腫瘍学:がんの浸潤・転移			がんの浸潤・転移のメカニズム及びがん病期ステージについて説明できる。			
24							
25	腫瘍学:形態学的特徴			腫瘍の形態学的特徴について説明できる。			
26							
27	加齢			加齢の機序と加齢関連疾患について説明できる。			
28							
29	学びの振り返り			これまでの授業の要点事項を整理し、説明することができる。			
30							

授業科目名	耳鼻咽喉科学		担当者名	大山健二			
			実務経験	医師として病院等での勤務経験あり			
教科書	病気がみえる vol.13 耳鼻咽喉科	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	言語聴覚士として活動するためには、聴覚・音声言語・嚥下等に関わる疾患を担当する耳鼻咽喉科学の知識が不可欠である。耳鼻咽喉科で扱う領域の生理機能や代表的な疾患の概要について臨床医の立場で解説し、理解を助ける。						
学習到達目標	①耳・鼻・口腔・咽頭・喉頭の構造と機能について説明できる。 ②この領域の代表的疾患の機序と対応について理解する。 ③それらの疾患による言語・聴覚・嚥下機能への影響について理解する。						
評価方法	出席・授業態度・前期試験(9月予定)						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	耳科学		耳の解剖・生理・検査 について理解する				
2							
3	耳科学		耳に関係した検査 について理解する				
4							
5	耳科学		中耳の疾患(中耳炎) についての知識を得る				
6							
7	耳科学		中耳の疾患(慢性中耳炎・伝音障害等) についての知識を得る				
8							
9	耳科学		内耳の疾患(感音難聴) についての知識を得る				
10							
11	耳科学		内耳の疾患(先天性・遺伝性難聴) についての知識を得る				
12							
13	耳科学		平衡機能障害(めまい)を呈する疾患 についての知識を得る				
14							
15	鼻科学		鼻の解剖・生理・検査 について理解する				
16							
17	鼻科学		鼻の疾患(鼻・副鼻腔炎) についての知識を得る				
18							
19	鼻科学		鼻の疾患(腫瘍等) についての知識を得る				
20							
21	口腔・咽頭科学		口腔・咽頭・喉頭の解剖・生理・検査 について理解する				
22							
23	口腔・咽頭科学		口腔・咽頭・喉頭の疾患 についての理解を得る				
24							
25	頭頸部外科学		頭頸部疾患の概要 についての知識を得る				
26							
27	補足		音声・言語・嚥下の障害 についての理解する				
28							
29	まとめ		講義全体を振り返って知識を整理する				
30							

授業科目名	呼吸発声発語系の 構造・機能・病態		担当者名	及川 隆司			
			実務経験	医師として病院等での勤務経験あり			
教科書	病気がみえるvol.13耳鼻咽喉科 (メディック・メディア) ぜんぶわかる呼吸の辞典 (成美堂出版)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	後期	必修	講義
30							
授業概要	発声・発話に関わる呼吸器系、口腔周辺の構造・機能・病態についての知識は、構音障害、音声障害、嚥下障害などの専門科目を学ぶ上で必須である。ここでは、それら専門科目を学ぶための基礎を固める。						
学習到達目標	1 呼吸器系、喉頭、付属管腔の構造・機能について説明することができる。 2 発話運動における呼吸器系、喉頭、付属管腔の働きについて説明することができる。 3 呼吸器系、咽頭・喉頭、付属管腔の病態について説明することができる。						
評価方法	出席、授業態度、定期試験の点数による評価。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	呼吸器系の基本構造			呼吸器の役割について説明できる。			
2							
3	呼吸器系の基本構造			肺の構造機能、呼吸筋と吸気筋、胸郭の運動、呼吸運動の神経支配について説明できる。			
4							
5	呼吸運動のメカニズム			吸気と呼気、安静呼吸と深呼吸、各種の肺気量と呼吸位、発声時の呼吸運動と呼気保持について説明できる。			
6							
7	呼吸機能検査の実際			肺活量と時間肺活量、その他の検査を学ぶ。			
8							
9	呼吸器系の病態			呼吸困難、喘鳴、異常呼吸、咳嗽、気道狭窄、過換気などについてそれぞれ説明できる。			
10							
11	喉頭の基本構造			喉頭の軟骨と靭帯、関節と筋群について説明できる。声帯と仮声帯、喉頭粘膜と分泌腺、神経と血管、年齢変化についても説明できる。			
12							
13	喉頭の機能			呼吸機能・発声機能について学ぶ。発声時の喉頭調節機能、嚥下時の喉頭調節について説明できる。			
14							
15	喉頭の病態			発声機能障害、呼吸障害について学ぶ。誤嚥・喉頭侵入(嚥下障害)について学ぶ。			
16							
17	喉頭の検査			間接喉頭検査、内視鏡検査について学ぶ。声帯振動の各種検査について学ぶ。			
18							
19	構音器官の基本構造			鼻腔、咽頭のしくみについて説明できる。			
20							
21	構音運動			構音に関する筋群の運動と神経制御について学ぶ。			
22							
23	構音器官の病態			組織欠損と奇形、運動障害、鼻咽腔閉鎖不全などについて学ぶ。			
24							
25	構音器官の検査			構音器官の各種検査について学ぶ。			
26							
27	呼吸器系についてのまとめ			呼吸器系、発声機能の構造・機能・病態の復習			
28							
29	発語系についてのまとめ			口腔、咽頭の構造・機能・病態の復習			
30							

授業科目名	聴覚系の構造・機能・病態		担当者名	大山健二			
			実務経験	医師として病院等での勤務経験あり			
教科書	病気がみえる vol.13 耳鼻咽喉科	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	後期	必修	講義
	30						
授業概要	言語聴覚士として活動するためには、聴覚系の構造・機能とさまざまな病態に関する、より深い知識と理解が必要となる。前期で学習する耳鼻咽喉科学の中から、聴覚系に範囲をしぼったかたちで臨床医の立場で解説し、理解を助ける。						
学習到達目標	①人間の聴覚器の構造と機能について理解する。②この領域の代表的疾患の機序と対応について理解する。③それらの疾患による言語・聴覚機能への影響について理解する。④聴覚障害への対応方法について理解する。						
評価方法	出席・授業態度・後期試験(2月予定)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	ガイダンス・構造(1)			耳(聴覚器)の全体像 について理解する			
2							
3	構造(2)			外耳と中耳の構造 について理解する			
4							
5	構造(3)			内耳(蝸牛)の構造 について理解する			
6							
7	構造(4)			内耳(前庭・半規管・神経) について理解する			
8							
9	機能(1)			耳介～中耳伝音系の機能 について理解する			
10							
11	機能(2)			内耳の機能 について理解する			
12							
13	機能(3)			内耳の機能 について理解する			
14							
15	機能(4)			内耳～聴神経機能 について理解する			
16							
17	病態(1)			難聴を引き起こす病態の概観 について理解する			
18							
19	病態(2)			難聴(伝音性) について理解する			
20							
21	病態(3)			難聴(感音性) について理解する			
22							
23	病態(4)			難聴(感音性) について理解する			
24							
25	聴覚の補償			難聴への対策 について理解する			
26							
27	補足			理解しにくい点について補足する			
28							
29	まとめ			講義全体を振り返って知識を整理する			
30							

授業科目名	神経系の構造・機能・病態		担当者名	及川 隆司			
			実務経験	医師として病院等での勤務経験あり			
教科書	病気がみえるvol.13脳・神経	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	後期	必修	講義
30							
授業概要	中枢神経から末梢神経までの神経の構造を学ぶ。また、正常な神経の働き、それらが障害されたときどのような障害が現れるかを学ぶ。						
学習到達目標	1 脳と神経系の構造・機能を説明できる。 2 神経系の障害による機能低下(言語聴覚士が関わる失語症、高次脳機能障害など)の機序を説明できる。 3 病態から推測される予後について説明できる。						
評価方法	出席率、授業態度、定期試験によって評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	中枢神経系と末梢神経の総論			中枢神経と末梢神経について説明できる。			
2							
3	中枢神経系の構造			大脳(皮質、辺縁系、基底核、視床、白質)の構造について学ぶ。			
4							
5	中枢神経系の構造			脳幹～小脳、脊髄、錐体路、錐体外路などについての構造を学ぶ。			
6							
7	末梢神経系の構造			脳神経の構造と働きについて学ぶ。			
8							
9	末梢神経系の構造			脊髄神経、自律神経の構造について学ぶ。			
10							
11	神経細胞の働き			神経伝導、神経伝達について説明できる。			
12							
13	中枢神経系の機能 大脳皮質の機能局在			運動野、体性感覚野、聴覚野、視覚野、前頭前野、辺縁系、言語領域について学ぶ。			
14							
15	中枢神経系の機能 伝導路			体性感覚、聴覚、視覚、小脳それぞれの伝導路について学ぶ。			
16							
17	中枢神経系の機能 大脳白質の機能			投射線維、交連線維、連合線維の機能について学ぶ。			
18							
19	中枢神経系の機能 脳幹、小脳、脊髄の機能			脳神経核、皮質核路、小脳、脊髄の機能について学ぶ。			
20							
21	末梢神経の機能			運動神経と感覚神経、神経筋接合部、知覚受容体の機能について学ぶ。			
22							
23	中枢神経系の病態			高次脳機能障害、運動麻痺(上位運動ニューロン、下位運動ニューロン)、運動失調の病態について学ぶ。			
24							
25	中枢神経系の病態			大脳基底核障害、感覚障害、脊髄障害による病態について学ぶ。			
26							
27	末梢神経系の病態			運動麻痺、感覚障害、自律神経障害による病態について学ぶ。			
28							
29	脳、神経系の検査			CT、MRI、SPECT、PETなどの各種検査について学ぶ。			
30							

授業科目名	生涯発達心理学		担当者名	山田嘉明			
			実務経験				
教科書	教科書は指定しない 配付資料(プリント)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	後期	必修	講義
30							
授業概要	人間はどのように発達するのか。この生涯にわたる変容過程を理解し、人間の発達にかかわる諸要因および個体と環境の相互作用のあり方について学習する。身体、運動、言語、認知、情緒、社会性の側面から各発達時期の特色を学び、発達理論を概観する。						
学習到達目標	発達を身体・運動、言語・認知、情緒・社会性の領域に分けてとらえ、説明ができる。 人間の発達時期ごとの特徴や特色を理解し、説明できる。 主な発達理論を理解し、説明できる。						
評価方法	レポート提出(30%)、期末試験(70%)						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	生涯発達心理学とは		発達の用語の定義、近代の発達研究、研究方法について説明できる。				
2							
3	胎生期における発達		胎生期(胚期、胎芽期、胎児期)における発達の特色について説明できる。				
4							
5	周産期における発達		周産期障害、母子保健統計、周産期死亡率、低出生体重児、胎児発育に影響する要因、アプガースコアについて説明できる。				
6							
7	新生児期・乳児期・幼児期における発達(1)		新生児行動評価法、カウプ指数、乳幼児身体発育調査、原始反射、姿勢反射、平衡反応、髄鞘形成、運動発達について説明できる。				
8							
9	新生児期・乳児期・幼児期における発達(2)		一語文、多語文、幼児語、認知発達、イメージを利用した遊びについて説明できる。				
10							
11	新生児期・乳児期・幼児期における発達(3)		情緒の分化、社会化、愛着、微笑、人見知り、分離不安、遊びの発達について説明できる。				
12							
13	発達検査		遠城寺式乳幼児分析的発達検査、日本版デンバー式発達スクリーニング検査について説明できる。				
14							
15	児童期における発達		ローレル指数、運動技能、思考における中心化、保存の理解、記憶方略、防衛機制について説明できる。読み書き・計算の能力、親子関係、友人関係				
16							
17	青年期における発達		二次性徴、形式的操作思考、心理社会的モラトリアム、アイデンティティについて説明できる。				
18							
19	成人期における発達		身体的変化、生活習慣病、結晶性能力、流動性能力、発達課題について説明できる。				
20							
21	老年期における発達		生理的変化、長期記憶、ワーキングメモリ、離脱説、活動説について説明できる。				
22							
23	発達理論(1)ーゲゼルの成熟理論、フロイトの心理学的発達理論		発達課題、発達段階、ゲゼルの成熟理論、フロイトの心理学的発達理論について説明できる。				
24							
25	発達理論(2)ーエリクソンの心理社会的発達		エリクソンの心理社会的発達理論について説明できる。				
26							
27	発達理論(3)ーピアジェの認知的発達理論、ヴィゴツキーの発達の最近接領域		ピアジェの認知的発達理論、ヴィゴツキーの最近接領域について説明できる。均衡化、シエマ、同化、調節、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期、最近接領域				
28							
29	まとめ		発達関連用語、発達における共通性、発達に影響を与える要因について説明できる。これまでの復習とまとめを行う。				
30							

授業科目名	学習心理学		担当者名	山田嘉明			
			実務経験				
教科書	教科書は指定しない 配付資料(プリント)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	学習心理学は経験によって長く続く行動変容の過程を研究する心理学の分野である。学習心理学ではすべての生物における学習のタイプと学習行動を対象とし、学習における諸現象を学ぶ。前半では行動の予測や制御に関する事項・原理を学び、後半では学習形態、学習と記憶の関係について学ぶ。						
学習到達目標	学習心理学の主要な概念を理解し、説明できる。 学習過程について概要を理解し、心理学の用語を用いて説明できる。						
評価方法	レポート提出(30%)、定期試験(70%)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	学習心理学とは			学習の定義, 研究方法, 生得的行動と獲得性行動, 馴化・脱馴化, 鋭敏化について説明できる。			
2							
3	古典的条件づけ(レスポナント条件づけ)			レスポナント条件づけ, 条件づけスケジュールについて説明できる。強化と消去, 連続強化と部分強化			
4							
5	道具的条件づけ(オペラント条件づけ)			オペラント条件づけ, 強化スケジュールについて説明できる。強化と弱体化, 強化プログラム			
6							
7	認知的アプローチ			洞察説, サイン-ゲシュタルト説, 認知地図について説明できる。			
8							
9	刺激性制御			三項随伴性, 経時弁別訓練, 同時弁別訓練, 般化勾配について説明できる。			
10							
11	刺激等価性			言語・表象機能の発現における刺激等価性(等価関係)について説明できる。			
12							
13	回避学習			回避学習, 学習性無力感について説明できる。			
14							
15	技能学習			知覚-運動学習, 知覚-運動協応について説明できる。			
16							
17	社会的学習			観察学習, 模倣学習, モデリング, 代理強化について説明できる。			
18							
19	学習法, 学習の転移			全習法と分習法, 集中法と分散法, 学習の転移について説明できる。			
20							
21	学習の成立要因			動機づけ, 要求水準, 欲求, 動因, 誘因について説明できる。			
22							
23	記憶と学習(1)			記憶の過程, 記憶の区分, 感覚記憶, 短期記憶, 長期記憶, ワーキングメモリについて説明できる。			
24							
25	記憶と学習(2)			長期記憶の区分, 陳述記憶, 手続記憶について説明できる。			
26							
27	記憶と学習(3)			記憶方略, 忘却, 自伝的記憶, 予定記憶について説明できる。			
28							
29	まとめと復習			これまでのまとめと復習を行う。			
30							

授業科目名	言語学 I		担当者名	関谷 友里			
			実務経験				
教科書	Crosslink 言語聴覚療法学テキスト 言語学・言語発達学	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	言語とは何か・・・言語は私たち人間が日常生活を営む上で重要なコミュニケーション道具の一つである。その言葉について理解を深め、当たり前のように使っている言語に対して理解する力や分析する力を身に着ける。						
学習到達目標	言語学に関する基礎的知識を用い、言語聴覚士として必要な知識を理解できる						
評価方法	出席・授業態度・授業内課題・前期末試験(9月実施予定)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション						
2	言葉の特徴を考える(言語学の基礎)			言語学とは			
3	言葉の特徴を考える(言語学の基礎)			言語の基本的な性質			
4	言葉の特徴を考える(言語学の基礎)			言語の特徴			
5	日本語の音を考える(音韻論)			音素			
6	日本語の音を考える(音韻論)			国際音声記号			
7	日本語の音を考える(音韻論)			モーラ			
8	日本語の音を考える(音韻論)			アクセント			
9	日本語の音を考える(音韻論)			複合語のアクセント			
10	日本語の音を考える(音韻論)			形態音韻論			
11	日本語の音を考える(音韻論)			連濁と転音			
12	日本語の単語を考える(形態論・意味論)			語とは何か			
13	日本語の単語を考える(形態論・意味論)			語の成り立ち			
14	日本語の単語を考える(形態論・意味論)			語種			
15	日本語の単語を考える(形態論・意味論)			語の意味			
16	日本語の単語を考える(形態論・意味論)			動詞の活用と自他			
17	日本語の文法を考える(統語論)			格関係と項			
18	日本語の文法を考える(統語論)			文法カテゴリー(ヴォイス・テンス)			
19	日本語の文法を考える(統語論)			文法カテゴリー(アスペクト・モダリティ)			
20	日本語の文法を考える(統語論)			複文			
21	日本語のバリエーションを考える			地域方言			
22	日本語のバリエーションを考える			社会方言			
23	日本語のバリエーションを考える			敬語・やさしい日本語			
24	日本語のバリエーションを考える			言語変化			
25	日本語の文字を考える			言語における文字			
26	日本語の文字を考える			漢字			
27	日本語の文字を考える			仮名			
28	日本語の文字を考える			表記法			
29	まとめ			振り返り			
30	まとめ			国家試験対策			

授業科目名	音声学 I		担当者名	関谷 友里			
			実務経験				
教科書	Crosslink 言語聴覚療法学テキスト 音響・音声学	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	後期	必修	講義
30							
授業概要	音声を生成する仕組みや音声の特徴、それらに必要な知識について理解する。						
学習到達目標	音声学に関する基礎的知識を用い、言語聴覚士として必要な知識を理解できる						
評価方法	出席・授業態度・授業内課題・後期末試験(2月実施予定)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション						
2	音声			音声の基本的な性質			
3	音声			音声のグループ分け			
4	音声			音声器官			
5	音声			呼吸の仕組みと音声器官の名称			
6	文節音(単音)			音声の記述方法			
7	文節音(単音)			国際音声記号			
8	文節音(単音)			母音			
9	文節音(単音)			日本語の母音といろいろな言語の母音			
10	文節音(単音)			子音			
11	文節音(単音)			IPAの子音①			
12	文節音(単音)			IPAの子音②			
13	文節音(単音)			50音の発音記号			
14	文節音(単音)			音声と音韻			
15	文節音(単音)			音節とモーラ			
16	文節音(単音)			色々な音声現象①			
17	文節音(単音)			色々な音声現象②			
18	超文節的特徴(韻律的特徴)			リズム			
19	超文節的特徴(韻律的特徴)			モーラ			
20	超文節的特徴(韻律的特徴)			アクセント			
21	超文節的特徴(韻律的特徴)			日本語のアクセントの変化			
22	超文節的特徴(韻律的特徴)			動詞のアクセント			
23	超文節的特徴(韻律的特徴)			日本語のアクセントと他の言語のアクセント			
24	超文節的特徴(韻律的特徴)			イントネーション			
25	超文節的特徴(韻律的特徴)			文末のイントネーション			
26	超文節的特徴(韻律的特徴)			パラ言語情報			
27	超文節的特徴(韻律的特徴)			非言語情報			
28	超文節的特徴(韻律的特徴)			性質による感情の表出			
29	まとめ			振り返り			
30	まとめ			国家試験対策			

授業科目名	音響学		担当者名	櫻井 潤			
			実務経験	企業等での実務経験あり			
教科書	言語聴覚療法学テキスト 音響・音声学	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	言語聴覚士の臨床に不可欠な音響分野の知識を学ぶ。また、音響学的な現象としての「声」を客観的に理解する。						
学習到達目標	①物理現象としての音を理解する。②音圧と音圧レベルについて理解する。③音のスペクトルについて理解する。④フォルマント周波数について理解する。⑤音源フィルタ理論について理解する。⑥音声のデジタル化について理解する。						
評価方法	出席・授業態度・前期試験(9月予定)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	物理現象の音について①			音の振動について理解する。			
2	物理現象の音について②			音声現象について理解する。			
3	物理現象の音について②			音源について理解する。			
4	音圧と音圧レベルについて①			圧力変化としての音について理解する。			
5	音圧と音圧レベルについて②			音圧と音圧レベルの違いについて理解する。			
6	音圧と音圧レベルについて③			音速・波長・周波数について理解する。			
7	音圧と音圧レベルについて④			デシベル(dB)について理解する。			
8	音の伝わり方について①			音の放射・回折について理解する。			
9	音の伝わり方について②			音の反射・屈折について理解する。			
10	音のスペクトルについて①			各種ノイズについて理解する。			
12	音のスペクトルについて②			周波数成分について理解する。			
13	音のスペクトルについて③			音の波形について理解する。			
14	音のスペクトルについて④			基音と倍音について理解する。			
15	音のスペクトルについて⑤			線スペクトルと連続スペクトルについて理解する。			
16	共鳴・共振について①			音の共鳴(共振)について理解する。			
17	共鳴・共振について②			空気振動について理解する。			
18	共鳴・共振について③			共鳴周波数について理解する。			
19	共鳴・共振について④			フォルマント周波数について理解する。			
20	音声生成について①			フーリエ解析について理解する。			
21	音声生成について②			音声波形について理解する。			
22	音声生成について③			音源、声道、口腔の働きについて理解する。			
23	音声生成について④			音源フィルタ理論について理解する。			
24	言語音の生成と知覚について①			発声音について理解する。			
25	言語音の生成と知覚について②			母音の音響特性について理解する。			
26	言語音の生成と知覚について③			子音の音響特性について理解する。			
27	言語音の生成と知覚について④			韻律と特殊拍について理解する。			
28	音声の記録方法とデジタル信号処理について①			音声のデジタル化について理解する。			
29	音声の記録方法とデジタル信号処理について②			標本化と量子化について理解する。			
30	音声の記録方法とデジタル信号処理について③			音声のデジタル処理について理解する。			

授業科目名	言語発達学		担当者名	熊谷 美緒			
			実務経験	言語聴覚士として療育施設等での勤務経験あり			
教科書	言語聴覚療法学テキスト 言語学・言語発達学／メジ カルビュー社	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	子どもがどのように言葉を獲得していくのか、を学ぶ。						
学習到達目標	前言語期、幼児期、学童期それぞれの発達段階における言語発達について理解できる。						
評価方法	試験及び課題提出等から、総合的に判断する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	「ことば」の発達とは何だろう			言語発達の基盤について理解する。			
2							
3	言語発達を説明する理論①			学習説、生得説について理解する。			
4							
5	言語発達を説明する理論②			認知説、社会・相互交渉説について理解する。			
6							
7	前言語期の発達①			コミュニケーション行動の発達、共同注意の発達について理解する。			
8							
9	前言語期の発達②			発声行動・言語音知覚の発達について理解する。			
10							
11	前言語期の発達③			グループワーク			
12							
13	1～2歳の言語発達①			初語の出現・語彙の増加、言語発達を促す大人の役割について理解する。			
14							
15	1～2歳の言語発達②			構文の発達、象徴機能の発達について理解する。			
16							
17	1～2歳の言語発達③			グループワーク			
18							
19	幼児期の言語発達①			語彙の発達、構文の発達について理解する。			
20							
21	幼児期の言語発達②			談話の発達、音韻意識の発達について理解する。			
22							
23	幼児期の言語発達③			グループワーク			
24							
25	学童期の言語発達①			読み書き能力の発達について理解する。			
26							
27	学童期の言語発達②			語彙・構文の発達について理解する。			
28							
29	学童期の言語発達③			グループワーク			
30							

授業科目名	社会保障制度		担当者名	熊谷 美緒			
			実務経験				
教科書	なし 参考)言語聴覚士テキスト 第3版/医歯薬出版株式会 社	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	言語聴覚士に必要な社会保障制度に関する基本理念や各種制度について学ぶ。						
学習到達目標	社会保障制度の概要を理解できる。						
評価方法	試験及び課題提出等から、総合的に判断する。						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	社会保障と社会福祉		社会保障の概念、機能について理解する。				
2							
3	社会保障の体系と範囲		社会保障の体系について理解する。				
4							
5	社会保険制度①医療保険		我が国の社会保険制度(医療保険、年金保険、介護保険、労災保険、雇用保険)について、理解する。				
6	社会保険制度②年金保険						
7	社会保険制度③介護保険						
8	社会保険制度④労災保険						
9	社会保険制度⑤雇用保険						
10	社会手当制度		社会手当制度について理解する。				
11							
12	公的扶助制度(生活保護制度)		生活保護制度について理解する。				
13							
14							
15	社会福祉6法(社会福祉法、児童福祉法、老人福祉法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、母子及び父子並びに寡婦福祉法)		社会福祉6法について理解する。				
16							
17	関連法律		関連法律について理解する。				
18							
19	障害者に関する施策と実施		手帳制度、障害認定、福祉用具等について理解する。				
20							
21							
22	介護保険①		介護保険制度について理解する。				
23							
24							
25	介護保険②						
26	社会福祉援助技術		社会福祉援助技術の体系について理解する。				
27							
28							
29	社会保障の実施体系		社会保障の実施体系について理解する。				
30							

授業科目名	リハビリテーション概論		担当者名	熊谷 美緒			
			実務経験	言語聴覚士として療育施設等での勤務経験あり			
教科書	医学生・コメディカルのための 手引書 リハビリテーション概 論―改訂第4版―/田島文博 編著/永井書店	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
時間数	30						
授業概要	専門職として必要なリハビリテーションの理念及び定義を学ぶ。						
学習到達 目標	①リハビリテーションの理念について理解できる。②リハビリテーションの過程について理解できる。						
評価方法	試験及び課題提出等から、総合的に判断する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	リハビリテーションの概念・理念・定義			リハビリテーションの概念について理解する。			
2							
3	健康と障害の概念と分類①			ICD、ICIDH、ICFについて理解する。			
4							
5	健康と障害の概念と分類②						
6							
7	障害の心理的・社会的視点			障害の心理的・社会的視点について理解する。			
8							
9	ヒトの発達と評価			小児期のリハビリテーションの概要について理解する。			
10							
11	リハビリテーション過程①			リハビリテーションの一連の流れ(情報収集、評価、目標設定、訓練プログラム立案、実施、再評価)について理解する。			
12							
13	リハビリテーション過程②						
14							
15	リハビリテーションの諸段階			リハビリテーションの段階について理解する。			
16							
17	医療とリハビリテーション専門職種と役割①			医療・福祉に携わる関連職種の役割について理解する。			
18							
19	医療とリハビリテーション専門職種と役割②						
20							
21	チームアプローチ			チーム医療について理解する。			
22							
23	ADL、QOLの概念と評価法①			ADLの概念・評価法(BI・FIM)及びQOLの概念・評価法について理解する。			
24							
25	ADL、QOLの概念と評価法②						
26							
27	医療・リハビリテーション医療			診療報酬、義肢装具について理解する。			
28							
29	高齢者・健康対策と少子化対策			高齢者・健康対策と少子化対策について理解する。			
30							

授業科目名	言語聴覚障害学概論 I		担当者名	小坂井秀行			
			実務経験	言語聴覚士として施設等での勤務経験あり			
教科書	やさしくわかる言語聴覚障害 著:小嶋知幸(ナツメ社) 言語聴覚士テキスト 第3版 (医歯薬出版)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	言語聴覚士の歴史と現状、職業倫理と言語聴覚療法の実際を踏まえて、「成人の言語障害」と「小児の言語障害」に大きく分けて、学習する。勿論、その中に失語、高次脳機能、口腔構音機能、嚥下機能、聴覚機能、言語発達などの各障害が入っており、それぞれにおけるSTのリハビリテーションの実際と、専門性を学ぶ。						
学習到達目標	言語聴覚士の職務と求められる専門性を理解し、各専門分野のリハビリテーションにつながる導入部としての基礎知識を構築する。小児から成人まで広く学ぶことで言語聴覚士の仕事の概要を理解する。						
評価方法	出席と授業態度、定期試験による評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	言語聴覚士の歴史と養成教育について			言語聴覚士の存在意義を理解する。			
2	ことばとは何か？言語コミュニケーションのしくみ			言語聴覚障害の種類を説明できる。			
3	失語症 脳の中の言語障害			失語症の定義・原因を説明できる。			
4	脳の中のことばの処理 聞く・話すことに関する障害			各言語モダリティを理解する。			
5	脳の中のことばの処理 読む・書くことに関する障害			各言語モダリティを理解する。			
6	失語症の障害部位、リハビリ、マネジメントについて			失語症の定義・原因を説明できる。			
7	失語症古典分類を学ぶ。			古典分類による8タイプを理解する。			
8	失語症者を支える社会のシステムについて			失語症意思疎通者支援事業を理解する。			
9	運動障害性構音障害 種類と原因			神経経路について理解する。			
10	運動障害性構音障害 タイプと症状			タイプと症状を説明できる。			
11	運動障害性構音障害 障害の評価とリハビリテーション支援			評価と訓練方法を理解する。			
12	器質性構音障害と機能性構音障害			器質構と機能構の違いを説明できる。			
13	声の障害 音声の出るしくみ			声を調節・調整するしくみを説明できる。			
14	音声障害の原因と検査と声のリハビリテーション			音声訓練の種類を理解する。			
15	摂食嚥下障害 摂食嚥下のしくみとその障害			嚥下の5期モデルを理解する。			
16	摂食嚥下障害の評価と対処法			間接的訓練と直接的訓練を理解する。			
17	誤嚥性肺炎の予防とチームアプローチ			誤嚥性肺炎について理解する。			
18	高次脳機能障害 コミュニケーション面に与える影響			脳の「階層性」を理解する。			
19	学問上の「高次脳機能障害」と行政が定める「高次脳機能障害」			高次脳機能障害の定義を理解する。			
20	高次脳機能障害の種類について:意識障害・注意障害・失行・失認・半側空間無視など			それぞれの障害について調べて説明できる。			
21	高次脳機能障害の種類について:記憶障害・遂行機能障害・意欲障害・社会的行動障害			それぞれの障害について調べて説明できる。			
22	正常なことばの発達 さまざまな仮説について紹介			言語獲得理論を学ぶ。			
23	生理学的発達・社会的相互交渉の発達・認知発達			言語発達を支える3つの基盤を理解する。			
24	初語から就学前までの言語発達			初語から就学前までの言語発達を理解する。			
25	聞こえの障害 聴覚の発達と聴覚障害の原因			聴覚の発達について理解する。			
26	難聴児への支援			早期発見からSTの関わりを学ぶ。			
27	難聴児への支援			早期発見からSTの関わりを学ぶ。			
28	地域リハビリテーションにおける言語聴覚士の役割			地域リハにおけるSTの役割を説明できる。			
29	多職種連携とICFの活用について			ICFの6つの構成要素を説明できる。			
30	臨床現場における言語聴覚士の基本理念とリスク管理			STの行動規範を理解し、説明できる。			

授業科目名	失語症 I		担当者名	萱場 文			
			実務経験	言語聴覚士として病院等での勤務経験あり			
教科書	失語症 臨床標準テキスト/ 医歯薬出版(株) 配布資料(プリント)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	通年	必修	講義
30							
授業概要	失語症における言語症状、タイプ分類、失語症の近縁症状について学び、失語症の基礎知識の習得をめざす。						
学習到達目標	①失語症の症状の理解の習得をめざす。②失語症と他の言語障害の違いを説明できるようになる。③臨床の基本的考え方となるよう、失語症のタイプ分類について理解できるようになる。						
評価方法	出席・授業態度・期末試験の結果から総合的に判断します						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション 失語症の歴史 失語症の定義			失語症の定義について説明できる			
2	鑑別 意識障害 認知症			失語症の近縁の症状について、失語症との違いを説明できる			
3	鑑別 構音障害 発語失行 その他						
4	失語症の原因疾患 脳血管障害 脳外傷			失語症の原因疾患について説明できる			
5	失語症の原因疾患 脳腫瘍 神経変性疾患						
6	病巣①			失語症に関連する大脳の言語領域について説明できる			
7	病巣②						
8	言語の側性化						
9	失語症の定義まとめ			「失語症とは」家族や友人に話すようにわかりやすく、定義、原因疾患を説明できる			
10	一般症状 精神状態の把握 神経心理症状の把握			失語症者の精神状態、神経心理症状について説明できる			
11	言語症状の分析モデル①聴覚的理解 単語読解過程			言語症状の分析モデルで理解面の症状を説明できる			
12	言語症状の分析モデル②発話表出 文字・音変換 書字表出過程			言語症状の分析モデルで発話面の症状を説明できる			
13	発話面の症状①流暢性 構音とプロソディーの障害			流暢性、構音とプロソディーについて説明できる			
14	発話面の症状②喚語困難 錯語 ジャルゴン 失文法 錯文法 接近行為 残語・再帰性発話			発話面の症状、喚語困難 錯語、ジャルゴン、失文法 錯文法 接近行為 残語・再帰性発話について説明できる			
15	理解面の症状① 語音認知 単語の理解			理解面の症状 語音認知 単語の理解について説明できる			
16	理解面の症状② 文の理解 談話障害			理解面の症状 文の理解 談話障害について説明できる			
17	復唱障害			復唱障害について説明できる			
18	読字障害			読字障害について説明できる			
19	書字障害			書字障害について説明できる			
20	古典型失語症候群① ブローカー失語 ウエルニッケ失語			古典型失語症候群 ブローカー失語 ウエルニッケ失語について説明できる			
21	古典型失語症候群② 伝導失語 健忘失語 全失語			古典型失語症候群 伝導失語 健忘失語 全失語について説明できる			
22	古典型失語症候群③混合型			古典型失語症候群 混合型失語について説明できる			
23	古典型失語症候群まとめ			古典型失語症候群のタイプ分類ができるようになる			
24	純粋型① 純粋語啞 純粋語聾 純粋失読			純粋語啞 純粋語聾 純粋失読について説明できる			
25	純粋型②純粋失書 その他の読字、書字障害 失読失書			純粋失書 その他の書字障害 失読失書について説明できる			
26	非定型失語群			非定型失語群について説明できる			
27	原発性進行性失語			原発性進行性失語について説明できる			
28	小児失語① 定義 鑑別 原因疾患 病巣 タイプ			小児失語の定義 原因疾患 病巣、タイプについて説明できる			
29	小児失語② 臨床像 評価診断 言語訓練 学習指導			小児失語の臨床像、評価診断、言語訓練 学習指導について説明できる			
30	まとめ・復習			言語症状・失語症候群について理解し、知識を習得できたか確認する			

授業科目名	失語症Ⅳ		担当者名	萱場 文・島田 真須美 小坂井 秀行			
			実務経験	言語聴覚士として病院等での勤務経験あり			
教科書	教)失語症 臨床標準テキスト／医歯薬出版(株) 参)標準失語症マニュアル改訂2版 参)WAB失語症検査/医学書院	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数					
		30					
授業概要	失語症者に対する臨床での評価法について学ぶ。						
学習到達目標	検査法の内容を理解し、その手続き、教示方法、結果の記載、解釈ができるようにする。						
評価方法	出席・授業態度・期末試験の結果から総合的に判断します						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	評価・診断 スクリーニング検査 検査実施上の留意点			検査実施上の留意点を学ぶ			
2	MMSE・HDS-Rの演習			基本的なスクリーニング検査の目的を学び、実施できるようにする			
3	SLTAの概要			SLTAの目的・内容について説明できる			
4	SLTA 聞く側面 演習			手順に沿って検査を実施できるようになる			
5	SLTA 話す側面 演習 呼称 単語の復唱 動作説明			手順に沿って検査を実施できるようになる			
6	SLTA 話す側面 演習 まんがの説明 文の復唱 語列挙 音読			手順に沿って検査を実施できるようになる			
7	SLTA 読む側面 演習			手順に沿って検査を実施できるようになる			
8	SLTA 書く側面 計算演習			手順に沿って検査を実施できるようになる			
9	SLTA 実技 ペアになって教示をだしてみる			検査の教示を正しく提示できるようになる			
10	SLTA 実技 ペアになって教示をだしてみる			検査の教示を正しく提示できるようになる			
11	SLTA 演習①			検査を実施し、適切に評価できるようになる			
12	SLTA 演習②			検査を実施し、適切に評価できるようになる			
13	SLTA 演習③			検査を実施し、適切に評価できるようになる			
14	SLTA 演習④			検査を実施し、適切に評価できるようになる			
15	SLTAまとめ			検査を実施し、適切に評価できるようになる			
16	WABの概要			WABの目的・内容について説明できる			
17	WAB 自発話 演習			手順に沿って検査を実施できるようになる			
18	WAB 話し言葉の理解 演習			手順に沿って検査を実施できるようになる			
19	WAB 復唱・呼称 演習			手順に沿って検査を実施できるようになる			
20	WAB 読み 演習			手順に沿って検査を実施できるようになる			
21	WAB 書字 演習			手順に沿って検査を実施できるようになる			
22	WAB 行為・構成行為・視空間行為・計算 演習			手順に沿って検査を実施できるようになる			
23	WAB 失語指数・皮質指数 演習			指数の算出方法がわかる			
24	WAB 実技 ペアになって教示をだしてみる			検査の教示を正しく提示できるようになる			
25	WAB 実技 ペアになって教示をだしてみる			検査の教示を正しく提示できるようになる			
26	WAB 演習①			検査を実施し、適切に評価できるようになる			
27	WAB 演習②			検査を実施し、適切に評価できるようになる			
28	WAB 演習③			検査を実施し、適切に評価できるようになる			
29	WAB 演習④			検査を実施し、適切に評価できるようになる			
30	WAB まとめ			検査を実施し、適切に評価できるようになる			

授業科目名	高次脳機能障害 I		担当者名	島田真須美			
			実務経験	言語聴覚士として診療所等での勤務経験あり			
教科書	高次脳機能障害学 第3版 石合純夫 著 医歯薬出版株式会社 2023	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	言語聴覚士が主に関わる失語症は、高次脳機能障害の1つであり、失語症者は他の高次脳機能障害を合併している場合がある。症状理解の一助として高次脳機能障害について知る必要があるため、基本概念を学び、発症機序や症状、評価方法、リハビリテーションの基本的な知識を身につける。						
学習到達目標	高次脳機能障害の基本概念を学び、各種の高次脳機能障害の発症機序や症状、評価方法、リハビリテーションの基本的な知識を修得する。						
評価方法	出席、授業態度、期末試験から総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	高次脳機能障害総論(基本概念)			高次脳機能障害の基本概念を理解する 教科書 第1章			
2							
3	注意障害(注意の定義・諸側面)			注意障害の分類について説明できる 教科書 第6章			
4							
5	記憶障害(記憶の分類・記憶障害の分類)			記憶の分類、障害について説明できる 教科書 第6章			
6							
7	失認(視覚性失認、聴覚性失認、触覚性失認、相貌失認、街並失認、身体失認、病態失認など)			各種の失認について説明できる 教科書 第4章			
8							
9	視空間障害(半側空間無視、構成障害、パリント症候群、地誌的失見当など)			視空間障害について説明できる 教科書 第5章			
10							
11	動作・行為障害(観念運動性失行、観念性失行、肢節運動失行、口舌顔面失行、着衣障害など)			動作・行為障害について説明できる 教科書 第3章			
12							
13	前頭葉症状(遂行機能障害、作業記憶障害、行動障害など)			前頭葉症状について説明できる 教科書 第6章			
14							
15	半球離断症候群			半球離断症候群について説明できる 教科書 第1章			
16							
17	認知症を呈する疾患の高次脳機能障害(アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉変性症など)			認知症を呈する疾患の高次脳機能障害について説明できる 教科書 第7章			
18							
19	原発性進行性失語			原発性進行性失語について説明できる 教科書 第2章			
20							
21	外傷性脳損傷の高次脳機能障害			外傷性脳損傷の高次脳機能障害について説明できる 教科書 第7章			
22							
23	高次脳機能障害の検査・評価			高次脳機能障害の検査・評価について説明できる教科書 第1章			
24							
25	高次脳機能障害の訓練・援助の基本原則			高次脳機能障害の訓練・援助の基本原則について説明できる			
26							
27	高次脳機能障害の訓練・援助の方法			高次脳機能障害の訓練・援助の方法について説明できる			
28							
29	高次脳機能障害のチームアプローチ			高次脳機能障害のチームアプローチについて説明できる			
30							

授業科目名	言語発達障害 I (学習障害を含む)		担当者名	熊谷 美緒			
			実務経験	言語聴覚士として療育施設等での勤務経験あり			
教科書	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学第3版/ 医学書院	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	後期	必修	講義
30							
授業概要	小児の言語発達障害についての基礎知識を学び、対象児への支援に必要な評価方法及び訓練方法を学ぶ。						
学習到達 目標	①発達障害の代表例について理解できる。②小児領域で必要な検査の概要を理解できる。 ③発達段階や障害特性に応じた訓練方法について理解できる。						
評価方法	試験及び課題提出等から、総合的に判断する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	言語発達障害とは(第2章-1)			言語発達障害についての基礎知識を理解する。			
2	言語発達障害の医学的背景(第2章-2)						
3	評価・診断① 情報収集(第3章-1)・ワーク ② 検査(第3章-2 A~E、G) ③ 発達検査 ④ 知能検査 ⑤ 学習認知の検査 ⑥ 言語検査 ⑦ コミュニケーション検査 ⑧ 評価のまとめ(第3章-3)・ワーク			対象児を評価する際に必要な視点を身につけ、主な検査方法についての概要を理解する。			
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11	発達段階に応じた指導(第4章-1)			発達段階に応じた訓練法の概要を理解する。			
12							
13	環境調整(第4章-2)			環境調整について理解する。			
14							
15	特異的言語発達障害(第4章-3) 限局性学習障害(第4章-4) 知的能力障害(第4章-5) 自閉症スペクトラム障害(第4章-6) 注意欠如・多動性障害(第4章-7)			言語発達障害が生じやすい代表例について学び、それぞれの障害特性が説明できるようになる。			
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22	働きかけの諸技法(意味・統語重視の指導、TEACCH、インリアル、SSTなど)			働きかけの技法について理解する。			
23							
24	保健・福祉・教育との連携(教科書第5章)			各種機関との連携について理解する。			
25							
26							
27							
28							
29							
30							

授業科目名	言語発達障害Ⅱ (学習障害を含む)		担当者名	熊谷 美緒			
			実務経験	言語聴覚士として療育施設等での勤務経験あり			
教科書	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学第3版/ 医学書院	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	言語聴覚科	1	後期	必修	講義
15							
授業概要	小児の評価に必要な検査の実施方法及び、結果の解釈について学ぶ。						
学習到達目標	適切に検査を実施し、結果を解釈できるようになる。						
評価方法	試験及び課題提出等から、総合的に判断する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	言語検査(PVT-R①)			検査の実施と採点ができる。			
2	言語検査(PVT-R②)			検査の実施と採点ができる。			
3	言語検査(<S-S法>①)			検査の実施と採点ができる。			
4	言語検査(<S-S法>②)			検査の実施と採点ができる。			
5	言語検査(<S-S法>③)			検査の実施と採点ができる。			
6	言語検査(<S-S法>④)			検査の実施と採点ができる。			
7	言語検査(<S-S法>⑤)			検査の実施と採点ができる。			
8	言語検査(<S-S法>⑥)			検査の実施と採点ができる。			
9	言語検査(<S-S法>⑦)			検査の実施と採点ができる。			
10	言語検査(<S-S法>⑧)			検査の実施と採点ができる。			
11	発達検査(遠城寺式乳幼児分析的発達検査法①)			記録用紙への記入と評価ができる。			
12	発達検査(遠城寺式乳幼児分析的発達検査法②)			記録用紙への記入と評価ができる。			
13	発達検査(新版K式発達検査①)			記録用紙への記入と評価ができる。			
14	発達検査(新版K式発達検査②)			記録用紙への記入と評価ができる。			
15	発達検査(新版K式発達検査③)			記録用紙への記入と評価ができる。			

授業科目名	運動性構音障害 I		担当者名	佐々木 貴行			
			実務経験	言語聴覚士として病院等での勤務経験あり			
教科書	「言語聴覚士のための運動障害性構音障害学」廣瀬肇他著 医歯薬出版 配布資料(プリント)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		時間数					
授業概要	STが行うリハビリテーションの中核ともいえる運動障害性構音障害を解剖・生理・神経学の確認をしながら概要を理解していく。また、評価に必要な知識の初歩も学び理解を深める。						
学習到達目標	運動障害性構音障害の原因と構音障害の分類を理解し、自らの言葉で説明できる。 評価(AMSD)の目的とマニュアルについて理解できる。						
評価方法	出席、授業態度、レポート、筆記試験を総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	運動障害性構音障害とは			COM障害の中での運動障害性構音障害を理解			
2							
3	運動障害性構音障害の基礎 1(原因や種類について)			解剖生理学をもとに運動障害性構音障害の基礎を理解			
4							
5	運動障害性構音障害の基礎 1.5(原因や種類について)			解剖生理学をもとに運動障害性構音障害の基礎を理解し説明できる			
6							
7	運動障害性構音障害の基礎2 (解剖・生理の視点から)			運動障害性構音障害の原因や種類の基礎を理解			
8							
9	運動障害性構音障害の基礎2.5 (解剖・生理の視点から)			運動障害性構音障害の原因や種類を理解し説明できる			
10							
11	運動障害性構音障害の基礎3 (正常と異常の違いを知る)			正常な構音と異常の基礎的な違いを理解			
12							
13	運動障害性構音障害の基礎3.5 (正常と異常の違いを知る)			正常な構音と異常の基礎的な違いを理解し説明できる			
14							
15	ことばの産生のしくみ1			発話機構について理解する			
16							
17	ことばの産生のしくみ2			発話機構について理解し説明できる			
18							
19	運動性構音障害のタイプ分類1			障害のタイプ分類を理解する			
20							
21	運動性構音障害のタイプ分類2			障害のタイプ分類を理解し説明できる			
22							
23	運動障害性構音障害の評価の基礎1			評価方法の視点と種類を理解する			
24							
25	運動障害性構音障害の評価の基礎2			評価方法を理解し実践できる			
26							
27	運動障害性構音障害のリハビリテーションの基礎			運動障害性構音障害のリハビリテーションを理解できる			
28							
29	運動性構音障害 Iについて振り返り			これまでの復習を行い自分の言葉で説明できる			
30							

授業科目名	摂食嚥下障害 I		担当者名	小坂井秀行			
			実務経験	言語聴覚士として施設等での勤務経験あり			
教科書	摂食嚥下障害学 第2版 医学書院	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	通 年	必 修	講 義
30							
授業概要	小児から成人・高齢者までの摂食嚥下機能の発達と成熟、加齢に伴う変化を追いながら、健常者の摂食嚥下の機序を学ぶ。そのうえで、摂食嚥下障害を引き起こす病態、嚥下運動を阻害する原因を把握するため、言語聴覚士が行える検査・評価についての知識を身につける。摂食嚥下リハビリテーションのチームアプローチにおけるSTの役割についても学ぶ。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児から成人までの摂食嚥下のメカニズム、病態を理解する。</li> <li>・摂食嚥下障害の検査・評価方法を習得し、問題点を抽出することができる。</li> </ul>						
評価方法	出席・授業態度、期末試験から総合的に評価します。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	乳幼児期から成人までの正常な嚥下機能の発達と嚥下の概念			摂食嚥下機能の発達について説明できる			
2	嚥下モデル「摂食の5段階」			嚥下モデルを理解する			
3	嚥下器官のしくみとはたらき 神経制御と運動			摂食嚥下器官の解剖について説明できる			
4	嚥下器官のしくみとはたらき 各口腔器官の運動と役割			摂食嚥下器官の機能について説明できる			
5	加齢に伴う摂食嚥下機能の変化と運動機能の低下			加齢に伴う嚥下機能の低下を説明できる			
6	小児の摂食嚥下障害の概要と原因			小児の摂食嚥下障害でのSTの役割を学ぶ			
7	脳性麻痺に伴う摂食嚥下障害			脳性麻痺の嚥下障害を説明できる			
8	脳性麻痺に伴う摂食嚥下障害			脳性麻痺への支援について学ぶ			
9	先天性疾患に伴う嚥下障害			先天性疾患の定義と病態を説明できる			
10	器質性障害に伴う摂食嚥下障害			口唇口蓋裂と摂食嚥下について説明できる			
11	成人の脳血管疾患による摂食嚥下障害			原因疾患を列挙できる			
12	成人の脳血管疾患による摂食嚥下障害			病態と特徴を説明できる			
13	進行性神経筋疾患による摂食嚥下障害			神経筋疾患と嚥下障害の関係を説明できる			
14	悪性腫瘍に伴う摂食嚥下障害			病態と特徴を説明できる			
15	高次脳機能障害・認知症に伴う摂食嚥下障害			発現機序を説明できる			
16	高齢者のサルコペニア、フレイル、オーラルフレイルの関係			高齢者の身体的変化を説明できる			
17	加齢に伴う摂食嚥下障害の病態と特徴			加齢と嚥下機能低下について説明できる			
18	摂食嚥下障害に影響を及ぼすその他の要因			薬剤が及ぼす嚥下機能低下を説明できる			
19	小児の合併症とリスク管理 呼吸器系の問題			呼吸器系の合併症について説明できる			
20	小児の合併症とリスク管理 消化器系の問題			消化器系の合併症について説明できる			
21	成人の合併症とリスク管理 誤嚥性肺炎・窒息・気管切開			誤嚥性肺炎について説明できる			
22	小児の摂食嚥下障害の評価 情報収集と発達を診る			小児の摂食嚥下評価と介入まで説明できる			
23	小児の食事場面の観察・評価			定型発達との違いを観察・評価できる			
24	小児のVF検査、VE検査			VF・VE検査について学ぶ			
25	成人の摂食嚥下障害の評価 情報収集～スクリーニング			成人の嚥下障害の評価の流れを学ぶ			
26	RSST、MWST、WST～頸部聴診法			各スクリーニング検査の目的を説明できる			
27	成人のVF検査 観察と評価			VF検査の見かたを学ぶ			
28	成人のVE検査 観察と評価			VE検査の見かたを学ぶ			
29	摂食嚥下障害の病態把握と重症度			摂食嚥下障害の重症度を説明できる			
30	摂食嚥下障害の予後予測と経口摂取を支援すること			経口摂取を続けることの重要性を学ぶ			

授業科目名	聴覚障害 I		担当者名	小坂井秀行			
			実務経験	言語聴覚士として施設等での勤務経験あり			
教科書	聴覚障害学 第3版 (医学書院)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	言語聴覚科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	聴覚障害についての基礎知識を学び、聴覚障害児・者が置かれている様々な状況に言語聴覚士がどのように対応、支援していくかを多面的に考察する。今後は、高齢の聴覚障害の割合も増えると予想され、高齢者の心理的特性と障害との関連、支援の方法について学ぶ。1年次は主に成人・高齢者の聴覚障害と補聴器装用までの支援について学習する。						
学習到達目標	聴覚障害とは何か？から始まり、小児の聴覚障害と発達の過程から、ろう者、中途失聴者、高齢者と様々なライフステージで抱える課題を理解し、そのリハビリテーション支援方法を考えることができるようにする。						
評価方法	出席・授業態度、試験により評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	聴覚の発達から考える。			聴覚の機能と意義を説明できる。			
2	聴覚障害とは何か？発症率・分類、障害の程度を学ぶ。			難聴が生活に及ぼす影響について理解する。			
3	聴覚障害とライフステージについて学ぶ。			難聴の心理的影響について理解する。			
4	聴覚障害のリハビリテーションの概要について学ぶ。			難聴リハビリテーションの概要を説明できる。			
5	音とは何か。音の性質、音波について学ぶ。			音の性質について理解する。			
6	音圧レベルと聴力レベルについて学ぶ。			聴覚と音響学との関係を理解する。			
7	聴覚の心理的特、ラウドネス、ピッチについて学ぶ。			聴覚における音の3要素を説明できる。			
8	マスキングの概念を学ぶ。			マスキングと聴力検査について説明できる。			
9	両耳聴、音源定位～ことばの知覚・認知を学ぶ。			両耳聴効果について説明できる。			
10	聴覚の発生～構造機能の概要を学ぶ。			聴覚器官の発生を説明できる。			
11	聴覚の発生～構造機能の概要を学ぶ。			聴覚器官の構造・機能の概要を説明できる。			
12	聴覚生理と語音聴取～補充現象について学ぶ。			有毛細胞と補充現象の関係を理解する。			
13	伝音難聴と感音難聴の概要を学ぶ。			聴覚障害の原因について説明できる。			
14	中枢性疾患、遺伝性による難聴を学ぶ。			聴覚障害の原因について説明できる。			
15	平衡器官の発生、構造、機能の概要を学ぶ。			平衡器官とめまいについて説明できる。			
16	聴覚補償機器～補聴器の基本的知識を学ぶ。			補聴器の構造・機能の概要を説明できる。			
17	補聴器の調整機能について学ぶ。			補聴器の調整原理と調整法を説明できる。			
18	補聴器の特性測定の実験の実際を学ぶ。			聴覚障害と補聴器の必要性を理解する。			
19	成人の補聴器適合と装用指導の概要を学ぶ。			補聴器の適合から試聴までを理解する。			
20	成人の補聴器適合と装用指導の概要を学ぶ。			補聴器の試聴から装用後まで説明できる。			
21	小児の補聴器適合について概要を学ぶ。			成人と小児の補聴器適合の違いを理解する。			
22	成人難聴のリハビリテーションの概要を学ぶ。			ライフステージでの課題を説明できる。			
23	成人難聴の評価、補聴効果の評価を学ぶ。			成人難聴へのSTの関わり方を説明できる。			
24	補聴器以外のコミュニケーション手段について学ぶ。			コミュニケーション手段の多様性を理解する。			
25	超高齢社会での難聴への支援方法を学ぶ。			中途難聴における補聴の課題を説明できる。			
26	補聴器装用へのSTの役割を学ぶ。			補聴器適合のチーム成員と役割を理解する。			
27	語音聴取改善のための聴取訓練を学ぶ。			視覚情報の活用方法について説明できる。			
28	コミュニケーションストラテジーの概要を学ぶ。			STが支援するコミュニケーションストラテジーを理解する。			
29	難聴発症時期別におけるSTの支援を学ぶ。			重症度によるコミュニケーション障害の改善に向けた支援を説明できる。			
30	高齢期発症例に対する指導・支援を学ぶ。			高齢期難聴に対しSTに期待される役割について説明できる。			

授業科目名	聴覚検査法 I		担当者名	小坂井秀行			
			実務経験	言語聴覚士として施設等での勤務経験あり			
教科書	聴覚検査の実際 改訂4版 (日本聴覚医学会) 聴覚障害学 第2版 (医歯薬出版)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	言語聴覚科	1	後期	必修	演習
30							
授業概要	1年次では、純音聴力検査、自記オーディオメトリー、閾値上聴力検査、語音聴力検査、インピーダンス・オーディオメトリーについてそれらの検査の方法を学ぶ。実際に検査を実施するにあたり、これらの検査機器の使用方法はもとより、検査の目的、検査結果から対象者に何を伝えるのかを十分に理解し、安全かつ適切な方法で検査の演習を行う。						
学習到達目標	言語聴覚士が行う聴力検査のために必要な知識を学び、検査機器の特性・機能について説明できる。実際にオーディオメータに触れ、基本的な操作をできるようにする。						
評価方法	出席率と授業態度。定期試験で評価する。						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	聴覚検査の予備知識 耳の構造と機能の復習		聴覚検査の前に予習・復習しておくこと。				
2	聴覚検査の予備知識 難聴その種類とオーディオグラムとの関係		聴覚検査の前に前期の復習をしておく。				
3	音の基礎知識 音圧レベルと聴力レベルなど復習		音の知識についても復習しておくこと。				
4	オーディオメータとは？その機能について演習(グループ・ワーク)		実際にオーディオメータに触れて確かめる。				
5	聴覚検査を行うに際しての心構えと注意事項		聴力検査の目的を理解する。				
6	純音聴力検査 気導聴力検査の準備とオーディオグラム		オーディオグラムの見方を理解する。				
7	検査法 予備検査～本検査の演習(グループ・ワーク)		検査機器を適切に操作できる。				
8	気導聴力検査の演習(グループ・ワーク)		検査機器を適切に操作できる。				
9	骨導聴力検査 その意義と検査方法		気導・骨導聴力検査の違いを説明できる。				
10	マスキングとは何か？ マスキング法の手順		マスキング効果について説明できる。				
11	骨導聴力検査の演習(グループ・ワーク)		骨導聴力検査を適切に実施できる。				
12	骨導聴力検査の演習(グループ・ワーク)		骨導聴力検査を適切に実施できる。				
13	気導・骨導聴力検査の振り返り(グループ・ワーク)		聴力検査の手順と操作を復習する。				
14	自記オーディオメトリー 演習(グループ・ワーク)		自記オーディオメトリーを説明できる。				
15	閾値上聴力検査と補充現象について		補充現象について説明できる。				
16	語音聴力検査 その意義と方法		語音聴力検査を適切に実施できる。				
17	語音聴力検査の演習(グループ・ワーク)		語音聴力検査を適切に実施できる。				
18	自記オーディオメトリー、語音聴力検査振り返り(グループ・ワーク)		各検査を通しての疑問点をグループ・ワークで話し合い、発表する。				
19	インピーダンス・オーディオメトリー 検査の目的と種類		インピーダンス・オーディオメータの検査の目的と評価を理解する。				
20	ティンパノメトリー 演習(グループ・ワーク)		機器を適切に操作することができる。				
21	耳小骨筋反射検査 演習(グループ・ワーク)		機器を適切に操作することができる。				
22	インピーダンス・オーディオメトリー 振り返り(グループ・ワーク)		検査の評価・結果を説明できる。				
23	耳管機能検査 方法・結果と解釈		耳管機能検査を理解する。				
24	選別聴力検査 新生児・乳幼児・学童選別検査		新生児・乳幼児・学童における聴力検査を理解する。				
25	他覚的聴力検査 聴性脳幹反応検査		聴性脳幹反応検査を説明できる。				
26	耳音響放射 OAEとEOAE		OAEとEOAEを説明できる。				
27	乳幼児聴力検査 BOA、COR演習(グループ・ワーク)		遊戯聴力検査を説明できる。				
28	CORの演習振り返り(グループ・ワーク)		COR検査を適切に実施できる。				
29	機能性難聴の検査について		機能性難聴について説明できる。				
30	これまでの各検査のまとめ		各種検査について復習する。				

授業科目名	臨床実習Ⅰ		担当者名	小坂井秀行 熊谷美緒 眞柳みゆき (実習地の指導者)			
			実務経験	言語聴覚士、歯科医師として病院等での勤務経験あり			
教科書	適宜紹介する	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	言語聴覚科	1	後期	必修	実習
45							
授業概要	病院や福祉施設など実習施設において、実際の臨床場面を見学することで言語聴覚士の仕事への意識を高めることを目的とする。言語聴覚療法、摂食嚥下療法、小児発達支援などの見学を通して、言語聴覚士のことば使い、態度、身のこなし、基本的スキルの実際を学ぶ。実習前の校内での実習指導と実習後の個人面談での臨床実習指導者からの評価及び自己評価をもとに、今後の課題と目標を考察し、実習の総括とする。						
学習到達目標	言語聴覚士の仕事、求められる資質について理解し、学生自身、自分に何が足りないのかを明確にして今後の努力目標をたてる。						
評価方法	実習生教育報告書の総合評定表による。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
45時間	<p>〈見学実習の目的〉</p> <p>言語聴覚士や関連職種の見学を通してその役割を理解し、対象者への対応や職業人・社会人としての態度を学ぶ。</p> <p>また、実際の言語聴覚療法の場面を見学することで、臨床の場の理解を深め、言語聴覚士の仕事の面白さ、重要さを見つけることも見学実習の目的である。</p> <p>〈見学実習の目標〉</p> <p>(1)リハビリテーション専門職に就くための自覚をもつ。</p> <p>(2)多職種連携、リハビリテーションチームとは何かを学ぶ。</p> <p>(3)記録・報告をすることを学ぶ。</p> <p>(4)対象者へのことば使い、接し方を学ぶ。</p> <p>〈実習計画〉</p> <p>(1)実習施設は医療機関、社会福祉施設とする。</p> <p>(2)実習時間は1日8時間とする。</p> <p>(3)実習施設での言語聴覚士の臨床場面を見学する。</p> <p>(4)毎日の実習日誌を記録し、バイザーから指導を受ける。</p> <p>(5)実習終了後、実習報告書を学校に提出する。</p> <p>(6)実習中に理解できなかったことを学校で指導する。</p>						

授業科目名	コミュニケーション技能論		担当者名	小坂井秀行			
			実務経験	言語聴覚士として施設等での勤務経験あり			
教科書	コミュニケーション論・多職種連携論(医歯薬出版)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	言語聴覚科	1	前期	選択	講義
15							
授業概要	言語聴覚士がリハビリテーションを実施する際に、まずリハ専門職として対象者とその家族とのコミュニケーションを円滑にすることは必須である。この授業では、対象者と家族、リハビリに関わる多職種の方々とのコミュニケーションを成立させるスキルをみがくための知識や技能を学ぶ。(アクティブ・ラーニング)						
学習到達目標	コミュニケーションの本質を理解し、人に伝えるとはどういうことか？コミュニケーションの手法を学びながら、対象者との面接、家族への伝え方、多職種との連携に必要な知識と応用力を身に着ける。						
評価方法	出席率、授業態度、定期試験による評価。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	この授業の目的とコミュニケーションとは？			コミュニケーションとは何かを説明できる。			
2	コミュニケーションの基本的な考え方			コミュニケーションの目的を学ぶ。			
3	傾聴する力と説得する力			傾聴して共感する(グループ・ワーク)			
4	言語によるコミュニケーション			ことばの働きについて説明できる。			
5	ことば以外のコミュニケーション～感情の表現			ノンバーバル・コミュニケーションの重要性(グループ・ワーク)			
6	コミュニケーションの手法			「開かれた質問」と「閉ざされた質問」を体験する(グループ・ワーク)			
7	患者・家族への伝え方			伝えることを考える。			
8	医療面接の基本			医療面接の基本要素を説明できる。			
9	多職種連携とチーム医療～他職種の理解と会話			多職種連携の重要性を理解する。			
10	リーダーシップとメンバーシップ			リーダーに求められる資質を理解し、対してチームを構成するメンバーに求められることも説明できる。			
11	チームアプローチの基本構造			PDCAサイクルを説明できる。			
12	チームアプローチの実際とSTの立ち位置			チームアプローチにおけるSTの役割を理解する。			
13	急性期・回復期における多職種連携の例			多職種間のコミュニケーションの重要性を学び、説明できる。			
14	維持期・生活期(在宅)における多職種連携の例			病院と在宅との多職種間のコミュニケーションの違いを学び、説明できる。			
15	コミュニケーションについて新たに学んだことを発表する回			コミュニケーションとは何か、グループで考えたことをまとめて発表し合う。			

授業科目名	認知症のリハビリテーション		担当者名	小坂井秀行			
			実務経験	言語聴覚士として施設等での勤務経験あり			
教科書	ぜんぶわかる脳の辞典 (成美堂出版):参考書として	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	言語聴覚科	1	後期	選択	講義
15							
授業概要	病院や施設の臨床の場で出会うであろう認知症の基礎知識、認知症の方とのコミュニケーション方法を学び、認知症の方へのリハビリテーションの実施に向けたSTのありかたを学ぶ。						
学習到達目標	認知症の種類、原因、行動と心理を理解し、リハビリテーション時におけるコミュニケーション方法や地域での言語聴覚士としての認知症支援や役割を理解する。						
評価方法	出席率と授業態度。定期試験により評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	認知症とは何か？を学ぶ			認知症の定義を説明できる。			
2	認知症の種類・原因・症状			認知症の種類について病態・症状を説明できる。			
3	認知症高齢者への支援			医療・介護両面からの認知症患者への支援について理解する。			
4	認知症と失語症(進行性失語)のちがい			進行性失語を理解する。			
5	認知症者とのコミュニケーション方法			バリデーション(グループ・ワーク)			
6	認知症者とのコミュニケーション方法			バリデーション(グループ・ワーク)			
7	認知症者とのコミュニケーション方法			ユマニチュード(グループ・ワーク)			
8	認知症者とのコミュニケーション方法			ユマニチュード(グループ・ワーク)			
9	認知症の方への支援1			外出時におけるSTの支援方法を理解する。			
10	認知症の方への支援2			通いの場でのSTの支援方法を理解する。			
11	認知症の方への支援3			食事時におけるSTの支援方法を理解する。			
12	認知症支援のリスクマネジメント			認知症患者へのリハビリ時に注意しておくことを説明できる。			
13	認知症予防と言語聴覚士			介護予防、フレイル予防におけるSTの役割を理解する。			
14	認知症の方たちとの地域共生について			認知症になっても住み慣れたところで暮らすためにSTが果たす役割を理解する。			
15	ここまで学んだことのまとめ			グループワークで授業の総括をして、各自発表する。			